明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可(毎月一回)
明治二十一年二月二十八日内務省許可(廿日發行)

大正三年一月二十五日發行

婦人衛生雜誌

第二百九十號

婦人衞生雜誌

第二百九十號目次

私立大日本婦人衛生會

二月例會通知

來る二月七日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講話有之候間御知友御誘引御來會被下度候也

一、地水火風

ドクトル 藤浪剛一君

大正三年一月

私立大日本婦人衛生會

◎募集人員第壹學年壹百名◯入學資格高等女學校卒業生
◯願書提出期限三月廿五日限り

東京女子醫學專門學校生徒募集

東京市牛込區市ヶ谷河田町六番地電話番町貳千拾九番
詳細ノ規則ハ郵券參錢ヲ要ス

謹賀新年

三共株式會社

高峯讓吉
鹽原又策
大橋新太郎
植村澄三郎
古谷竹之助
古田宗二郎
室田義文
大谷幸之助
鳥居德兵衛
高松豐吉
馬越恭平
大谷嘉兵衛

謹賀新年

東京製藥株式會社

鹽原又策
高橋三郎
大谷金藏
稲井源次郎

謹賀新年

高峯化學研究所

550 WEST 173 ST.
NEW YORK CITY.

謹賀新年

麻布飯倉片町二十八番地
鹽原又策

前髪心の覇王　美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	貳匁四分
壹尺貳寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



▲▲日本消化機病學會會員ヲ募集ス▼▼

（注意）新ニ御入會セラルヽ諸君ハ郵便局ニテ交付スル振替貯金拂込用紙裏面通信文記載欄ニ其旨記入捺印ノ上會費金貳圓（大正元年度七月以降ハ金壹圓）拂込ト同時ニ申込マルヽヲ便宜トス○本會會費ハ一ケ年金貳圓（但シ七月以降ノ入會ハ半ケ年金壹圓）○本會會計年度ハ一月ヨリ十二月迄トス○會員ニハ隔月一回發行スル本會雜誌ヲ無料ニテ配付ス○會費其他ノ御送金ハ本會振替貯金口座東京五三六六番ヘ御拂込アリタシ○本會會則御入用ノ方ハ郵券貳錢御同封申込アリタシ直ニ送付致スベク候

大正二年十二月　日　日本消化機病學會

日本消化機病學會雜誌（第十二卷第六號）（大正二年十二月五日發行）

〔原著〕一、胃癌ノ「レントゲン」檢査成績、醫學士小林幹。二、十二指腸蟲ト誤ラレツヽアル「トリコ、ストロンギールス」屬寄生蟲蔓延ノ狀況ニ就テ、醫學士神保孝太郎。〔寄書〕北海道地方ニ於ケル人體寄生蟲ノ分布狀態、「附」十二指蟲卵有鉤及無鉤條蟲卵、牟田熊彥〔臨牀小錄〕食道癌患者ガ咀嚼不十分ナル羊羹ヲ嚥下シ狹窄部ニ嵌塞シ通過全閉ヲ起セシモノ、治驗例、赤松是三郎。〔講話〕「アナフイラキシー」現象ニ就テ特ニ腸管ヨリスル「アナフイラキシー」現象ニ就テ、醫學士三田定則。〔內國文獻〕三十二件〔外國文獻〕十六件〔雜報〕二件〔名簿〕（追加）〔廣告〕八十餘件〔總會員名簿〕

本會雜誌ハ毎號金參拾五錢（郵稅共）毎卷（六號）金貳圓五錢（郵稅共）
●廣告料一行二十字詰金拾貳錢、半頁貳圓貳拾錢、一頁四圓貳拾錢二回（組置）一割引、三回以上一割五分引（但前金）●雜誌見本入用ノ方ハ三錢郵券十二枚同封發行所又ハ賣捌店ニ就キ御請求アルベシ

次號 日本消化機病學會雜誌（第十三卷第一號）（大正三年一月三十日發行豫定）

發行所　東京市麴町區內幸町一丁目三番地胃腸病院內
日本消化機病學會事務所

賣捌店　東京市本鄕區春木町三丁目三十二番地
南江堂支店
（電話下谷五七番振替口座東京五二〇番）



現代生活の兒童に及ぼす影響

文學士　松本孝次郎

本講演は日本兒童學會の例會に於てなされたるものにして頗る有益のものと思はるゝがまゝに同學會の許を得てこゝに揭ぐることゝなせり。（記者）

時代の子供に及ぼす影響の著るしきことはいつの世の中でも親が今の子供は大變に昔の子供よりも賢いといふやうな話をして居るのを以て觀ても明かである。進歩せる時代に生れた兒童は、それだけ早く世の刺戟を受けて、さうして發達する所も著しいやうにあるといふことが凡そ想像されます。又昔からの記錄に依つて觀ましても生存競爭の少ない緩つくりして居るやうな時代でさうして社會の生活の單純な時代に生れた所のものでありまするとき、割合に年齡の經つて來るまでも殆ど子供らしい生活を長く續けて居る場合があるやうに見受けます。それでそれ等の狀態から考へて見ましても時代が兒童に及ぼす影響は必ず種々の場合に於て認むることの出來るものである。それで今私が現代生活の兒童に及ぼす影響といふ點から考へて見まするとき都會生活の場合とそれから農村生活或は田園生活の場合と二つに別けて考へて見た方が研究上に便宜であります。先づ初には都會生活の方の側から御話して見たいと思ひます。

總ての時代は其何れの時代に於きましても人生を成るべく値打の有るものにしたい、人生を成るべく賴もしい愉快なものにしたいといふ傾向を以て進んで

居るものである。さうして其時代に於ける文學者とか或は美術家とかいふさういふ人々の使命として働いて居る所は主もに人生の價値を增すとか或は人生の愉快を增進するとかいふ方面に盡力されて居るのである。併し斯ういふやうな文學者或は美術家に依つて人生の價値を益々價値あるものとして感せしめられる人の數は先づ高尚なる所の趣味を有つた人の方に於て多く見るのであつて、普通多數の人はさういふ側に依らないで却つて兒童の側の方から人生の値打のある、人生の愉快であることを感せしめられるのが多いであらうと思ひます。即ち極く幼けない方の子供に對しては假令敎育の無い低い程度の智識の人であつても其小さい子供に向つて有らゆる同情を起さないものはない、其幼けない子供を見ると餘程敎育の少ない人でも人生の一つの樂みを感じます。又青年の活潑な熱心な狀態を見ますると如何にも青年といふものゝ働きに依つて人世が快樂なものであるといふことを鼓吹せられるやうな感じを持ちます、如何にも青年の活動に依つては人生に新らしい生命を開いて行くやうな感じを起さしむるものである、それ故に文學者或は美術家の使命として居る所のものと兒童の使命として生れて居る所のものと一致して居る所があります、それで此點から考へて見まするど成るべく其兒童の快樂、兒童の娯樂とかいふ方面に向つて注意をして行くことが、自然と其人生の値打を增して行く肝要な一つの方法になつて行く譯である。それであるからしてつまり古代の都市を經營した所の人々は或は劇場のやうなものとか或は大勢の者が共に見て樂むといふやうな觀覽場とかに就いて常に注意をして居る。彼の希臘人の如きは矢張り青年共の遊戲に非常に重きを置いて居つた。中世の都會生活の狀態となりましても同樣で、其中世に於きましても武士は戰さの眞似をするとか、さういふやうな特別のことをやつて、青年などをして進んで益々人生の愉快を增さしむるやうな手段を取り或は舞臺を設けて舞蹈をやつて大勢の人と

快樂を共にし人生は面白いものといふ感じを持たせるといふやうに注意して居る。

然るに近來になつては昔の都會の品位に依つて充たされて居つた所のものが無くなつて、さうして都會生活は他の言葉で言へば實業的生活として解釋される狀態になつて來ました、即ち現在の生活に於きましては兒童が其の使命と言つてもよいやうな役目を盡さうとしても盡すことの出來ないやうな狀態に段段なつて來た。例へば都會生活に於ては段々生存競爭が激しくなつて來て大勢の人々と共に或る時期を以て遊び暮らすといふやうな餘裕が少ない狀態になつて來た。或は神社が其祭禮をやるに致しましても古代的の祭が幾分か遺つて居りますけれども、新らしく出來上つた都會にはさういふことが少ない、昔から開けた都會で以前に祭禮の盛んであつたやうなものも自然ずん／＼減つて行く傾きがある。即ち祭禮といふことは俗にお祭り騷ぎといふことを言ひますけれども、此お祭り騷ぎが人生に直接の關係ある意義を有つて居る。其場合に於て老幼男女を問はず共に愉快なる一日を過すといふことに依つて餘程人生の價値を增さしむる、人生の愉快を感ぜしむる所の意味を含むで居る、それが唯今のやうな狀態になりまするど、凡そ年齡に依り老幼男女に依つて快樂とすることが次第々々に分れて來て各々皆特別なる快樂を求むるやうになつて來て、即ち衆と共に樂むといふ意味は段々減つて來る。それで斯ういふやうな點から考へると矢張り都會生活を經營して居る所のものがどうしても重要なる職分の一として是非衆と共に樂むやうな快樂を得べき施設をしなければならぬ必要がある。斯ういふ所はどうしても皆と共に高尚に樂むやうな人生を愉快ならしむるやうな、さういふ方法を立なければ、段々と年寄つた者は年寄つたもので自分の樂をやつて兒童には構はぬ、兒童は兒童でやつて居るといふ風になると、皆が共同一致して愉快を感ずることが出來ない。是等は都會生活といふものが段々に複雜になつて來るに從つて餘

程兒童に對して與へて居る惡るい影響であると考へなければならぬ、之が爲には老少男女の別を問はずして皆が共々に樂むことが出來る、音樂の如きは、餘程値打のあるものであらうと思はれます。

それから元來都會生活といふものが謂はゆる昔の生活の狀態より段々變つて來ました。今では都會生活は卽ち實業的生活と言つてもよいやうな意味の上に於て餘程變つた意味を兒童に與へつゝ居るのである。凡そ今の都會が發達して來た順序を考へますれば最初都會が出來るときに方りては一面には武士といふやうな、さういふ兵力を有つたものが其場所を征服して占領するそれから其人物に取つて是非必要なる物資を供給する農民の居住を要する、さうして又農民に必要なる所の器具を供給するものを要する、從つて職工的の工業をするやうな人々の生活を要するやうになる。是等が尙ほ一層益々發達すれば此他に商人といふやうな職業が加はつて都會を爲すやうになる。市の經營は凡てかゝる順序に依つて茲に現はれて來るものと考へられます。近來のやうに都會が實業的の都會と言つてもよいやうな斯ういふ時代になつて來ますると、茲に以前と違つた影響が現はれて來る、先づ年齡の上から漸く先づ自分から多少の働きが出來るやうな少壯な男女を初として靑年に至るまで以前の時代には多く家庭に於て働いて居つたものが總て實業的に經營されて居る製造會社大商店のやうなものに段々傭はれて働ぐ風になつて來た、此少壯なる所の男女が注意深い所の家庭の監督の下を離れて他の比較的自由なる場所に於て働いて居るやうな狀態になつて來た。斯樣な多數の少壯の男女が父母の監督を離れて自由に働くやうな狀態の下に出されて來るといふことは以前には經驗しなかつたことである。さうして此樣に大勢の者を集めて來て、それで其人々は兒童の上に對してどういふ風に見てゐるか、世間の人はどういふ點から之を見て居るかといへば、寧ろ如何なる品物を造ることが出來たか仕事を如何にすることが出來たか彼等の勞

働をする所の力が如何にあつたかといふことをのみ見て居つて、其少壯男女が道德的生活の如何といふことを見て居るなどゝいふものが少ない、即ち其兒童の行動を見て居るなどゝいふことはない。以前の時代の社會生活の上に於て兒童の活動して居る所を觀察したときなどゝは全く違つた觀察の仕方をして居る。又兒童そのものから觀ますれば製造を主とする大商店などで働いた結果として皆自分が一日幾らといふやうな金を稼ぎ出す、それだけの金を稼ぎ出すから以前の親に依つて支給されて居つた時代と違つて自分の心の儘に幾分か使ひ得る金錢を持つて居るといふやうな變つた狀態になつて居る、さうして都會は種々の人間が集つて居る所でございますから此少壯なる男女が持つて居る財囊に在る多少の金をどうかして取つてやらうといふ考を有つて何か人々の好む快樂の方面に於て營業しやうといふ人間が出て來る。何か少壯男女の好む所を供給したいといふ眼を以て見て居る、それで斯ういふ風な狀態になりますれば詰り少壯者が進む途があるかといへば茲に二途あるのみである、幾分か自分が働いて幾分か自分の自由になる金錢を得て之を正當の理由ある方面に能く利用することを圖るのが一つ、或は此多少の金錢を何かに消費して仕舞ふかといふことが一つ、此二つの途があるだけであります。それでつまり餘程意思の强固なものは之を利用することに向ひますけれども、さうでない者は誘惑され、或は虛榮心の爲に全く自分の骨折つた所の結果で得た多少の金は皆消費して仕舞ふといふ狀態になつて來る。それであるから少壯なる人々をして第一に正しき理由ある所に能く利用することを得せしむる施設をして行くことが肝要である。つまり何か少壯なる兒童をして高尙なる方面に想像力を働かせるやうに導いて行くことが肝要である。例へば幾らか書畫を奬勵して書畫を樂む、或は俳句を作つて樂むとか或は歌でも作つて樂むとか或は音樂のやうなものを奬勵して樂むとか、何か高尙なる想像力を働かしむるやうな方面を施設して

行くことが、つまり自分の稼いだ金を善用するに便利を與へることになる。此方面に於ての施設が現代に於ては不十分であります。そこで之が爲に唯毎日働いて得て來たものを全く空しく使つて居るのが比較的多いといふ有樣で、其結果が矢張り惡習慣が出來る、之に付いても都會經營を爲しつゝあるものは注意して幾らか此方面に於て巧みに導いてやつて、さうして惡るい方に導かないやうにして行かなければならぬ。此のことは都市の當局者の責任の中に入れて行かなければならぬのであります。

それから現代の都會生活のやうなものになつて來ると、どうしても兒童に對して鄕土といふ觀念が非常に乏しくなつて來ます、鄕土といふ觀念を子供に持たせるには不變化といふことが必要になつて來る、都會には變化が非常に多い、即ち地方生活の場合に於ては其地方に於ける山とか河とか原野とかいふやうなものが比較的變化が無していつも同じ狀態であるといふやうなことから自然に親たしく思はしむる、懷かしく思はしむるものがある。都會のやうな變化の激しい所では飛鳥川昨日の淵は今日の瀨といふやうな感情を繰返すに過ぎない。都會に住居する人の種類が各方面から集つて來た所のもので何か業務上の關係から多く來て居りますから、其業務上のことから變化を生ずることも少なくない。昨日まで自分の隣人と思つたものが忽ちにして遠い國に行つて仕舞つたといふやうなことがある。互に隣家の交際の上でも變化の劇甚なる狀態を眼の前に見る。市街の狀態でも日に月に變はりつゝある、それでありますから今日の狀態では都會生活で鄕土の觀念を持たしむることは餘程困難である。又斯ういふ風な生存競爭の激しい都會に就て土地に狃む、親しむといふ土地に對する感情を持たせるといふことは次第次第に減じて行くのである、例へば以前の東京にはまだ神社佛閣は幾らか自然と兒童の心に一種の良好なる感じを與へることもございますけれども如何にも近頃になつては餘程さういふことが減つて來たやう

な有樣である。之に對しては或る教育家達は東京に於て鄕土の觀念を養成せしむる材料を集むるといふことでありますが、之を集むるに付いては餘程深く研究して見なければならぬことでございます。地方生活に於て鄕土の觀念を養成せしむる材料を集むること〻都會生活に於て鄕土の念を養成せしむる材料を集めること〻は少し違ふ點があると私は感じます。東京のやうな所に於ては昔からの名所とかいふものから鄕土の觀念を養成せしむることは困難になつて居らう、寧ろさういふ點から言へば明治天皇の御宮が東京附近に出來るといふやうなことは鄕土觀念を養成せしむるには有效であらう、此外都會生活に於てはどうしても子供が餘程鋭敏になりますからして種々の日常に現はれて來る事柄が直接に子供の方に影響を與へまして、さうして子供の行動を色々に支配して行くのである。例へば大變嫌なことでありますけれども、一時買收といふ現象が往々此社會に盛んに行はれたやうな時代に於ては、學校で子供が級長を選擧する場合に於てそれに類したやうなことをやつて自分自らが級長に選擧される。自分を選擧して呉れ〻ば斯ういふものをやるから選擧して呉れといふやうなことをやつて居つたものがある。さういふやうな社會の惡影響が直きに子供の方に影響して行く。或は又社會が現在に於きましては實際主義になつて來まして十年二十年前の子供等と變つて來た以前の子供は小學校に行つても、お前は學校を濟まして何になるかと問はれた所で何になるかといふことは殆ど考なしに、又其家庭の親たる者も多くは其子供を小學校の教育を了らせてからどういふものにするといふことを考へずにボンヤリと唯學校に行つて居つたといふ時代もございます。けれども現在に於ては小學校の子供でも學校を出てから軍人になるのであるとか、商人になるのであるとかいふ、さういふ實際主義になつて居るといふことは明かである。以前はお前は何になるかと斯う言はれてもそれに對して答ふることが出來なかつたものが、

現在の兒童としては何になるといふことを答へぬものが少ないやうになつて居る。これ等は矢張り社會が實際主義に向つて來て居る影響である。其の結果はあまりに實利に傾き過ぎる恐れがある。其外此社會の傾向が圓滿といふことを望んで非常に圓滿といふ一方に走つた結果、一種の軟弱教育を與へて居る。さういふ結果として兒童に段々影響を與へて兒童は自分の特徴といふものを形成することを餘り好まぬ傾きになりつゝある。是等は社會改良といふことが行はれて來て子供に對して立派な影響を與へることになれば從つて子供に良い影響を受けるやうになります。然し其反對で社會の不完全なる場合には子供には不良なる感化を與へられる譯である。尚ほ其他に都會生活に於ける子供が現在の生活狀態からどういふ影響を受けて居るかといふことを見まするに都會生活の家庭は概して兒童を教養することの常識に於て稍々發達して居るやうである。それだけ子供がお蔭を被つて居る譯である、けれども都會生活を營んで居るものは概して忙はしいことが多いのでありますからして其點から考へますれば父母と子供の接觸といふことが幾らか少なくなつて居る。極く忙はしい人になつては尚ほ一層父母との間の關係が餘程離れて居るやうになつて居る、多くは他人の手に任かせるといふ風になつて父母其者が直接に子供の教養の責任を持たない生活を取つて居るものが少なからぬのでありますから、それ等の子供は都會の生活に於てどうしても健全な家庭になつて居るとは言へませぬのでございます。都會に於ては博物館とか種々の展覽會とか、さういふ設備が澤山出來て場合に依ては模型、標本、書畫といふやうなものを見ることの機會が澤山ありますから其方から利益が多うございますけれども、兒童の見聞に觸れる所のもの、多くは出來上がつた所の結果を見るだけに止つて居るからして、如何にして造られたか如何にして造るものなるやといふことを見ることが出來ませぬそれ等の製造、それ等の製作をして居る所の、地方

生活をなす兒童が却つて如何にして造るものなるやといふことを多く知つて居るやうになつて居る。是は一面から考へれば都會生活をして居る所の兒童は兎角文明のお蔭を被つて居るやうな形であつて損失を招いて居るやうな狀態である。それで都會に於ては現在の生活狀態から申しますれば矢張り各地方の人士集つて來る所でありますから茲に一種の東京語と稱する明晰なる言語、一種の氣力ある所の語調を持つて居る言語が出來て此言語を明瞭に巧みに利用するものでなければ都會生活に適應することが出來ませぬから、自然に都會に生れたる子供が言語が上手になつて物の發表が巧みである。此點は非常に幸福になつて居りますけれども、併ながら矢張り都會は刺戟が多くして神經が過敏に爲り易い、さうして種々の文物が澤山輻湊して茲に現はれますから子供が自分の注意を働かせる範圍が非常に廣くして、或る仕事に緩つくり注意して集中するといふ事が出來惡くゝなりますから、さういふ點から考へますると、どうも都會の生活をして居るものは沈着を缺くといふことに陷り易い弊がある。又何事も便利を爲し易い所の都會に居る子供は自分の必要なることが少し缺けてあつても餘ほど不便不通を感ずるといふやうなことであつて到底田園生活をやつて種々の不便に堪へ困難を忍んで居るものと較べものになりませぬ。此點から考へますると、其忍耐力を養成するといふ點は非常に不便の地位にあるといふことになります。又一體都會に於ては或る種類の人物を往往誘惑して少壯なる兒童の弱點を利用して自分の利益を計らうといふものも澤山あるからして、都會生活をして居る兒童は田園生活を爲すものに較ぶれば一層深い監督を要することになつて居る。又都會生活は自然界と子供と密接の關係を保つことが出來惡くい、人家が稠密して居つて少しの空地も直きに利用して建築物を造つて仕舞ふやうな場所でありますから兒童は都會に於て自然界と接觸することを遮けられて居る有様になつて、自然物に對する子供の智

識を已むを得ず少なくされるのみならず、近來段々工業が進歩して玩具の如きも工藝品を弄ぶやうになつて自然物を弄ぶことがなくなつて來まして、都會に生活するものは自然界に關する玩具を弄することが少ない、之が都會に住んで居る所の子供は智育から言つても餘ほど不利益なる位地にあると言はなければなりませぬ。それで都會生活の現在に及ぼす影響といふものは尚ほ擧げれば種々でありますけれども、其中の須要なものを申しまするとたゞ今申上げましたやうなことでございます。

それで次には農村生活に付いて申しまするど、農村生活といふものも以前と違ひまして次第に都會化して來るといふことは明かである。それでどうしても交通機關が段々に發達して來まして兎角總ての交通が盛んになつて來るといふこと、又從つて或る農村の生活が直きに商工業の生活に化して行く、又都會の人士が或は避暑とか或は旅行のやうな機會に依つて都會の風俗流行を輸入するやうなことになつた爲めに田園の生活も稍〻都會化するやうになつて餘ほど農村生活が次第々々に都會に類似して來るやうになりました。さうして其平素農村に於ける人々の頭には自分は農村人種であるといふことはどういふやうに感ぜられて居るかを考へて見ねばならぬ。最初都會の成立の場合は矢張り武士を中心として居るといふことが先づ根本的のことゝ思はれる。それで或る時代に於ては事あるときには武士は即ち平時は農夫で農夫は事あるときは銃槍を執つて武士になつて仕舞ふといふやうな風で武士即ち農民、農民即ち武士といふやうな斯ういふやうな狀態でありましたからして、或る時代に於ては自分は農民であるといふことは立派な一つの名譽であるといふことが頭に考へられて居つた時代がありました。例へば羅馬時代の如きはそれでありまして農民であるといふことが、つまり一種の名譽のやうに思ひ、人名でも農產物の名前から取つたとか又は農民であるといふ如き意味を現はす言葉を擇ぶことが行はれて居つた、さ

うして段々時代が變化しまして近來では此社會といふものは經濟的社會になつた、何事も經濟的關係を以て解決をして仕舞ふといふ時代になつた、最初の時代に當つては士農工商といふて最後の位地を占めて居つた商人が今では一變して非常に高いものになつた社會一般は商人は一種の名譽ある階級であるといふやうな考を持つて居る時代になつて來た、即ち世界全體が經濟的觀念を以て何事をも解決するといふやうな世界の大勢である。斯ういふ時代になつて農村の家庭生活の狀態はどうかといふことを考へて見るに、農村の家庭の生活をやつて居る者が、自分のやつて居る仕事は名譽ある仕事であるといふ思想を以て農事をして居るものは非常に尠ない。大概自分等の見て居る範圍で以て云ひますれば農村の家長は農業を以て神聖の家業であるといふ眞心を以て名譽と考へて居るものが尠ないやうである。さうして農村の家長の思想は經濟的の觀念を以て萬事を解釋することに段々進んで參りました。同じ農事をやるにしても自分が鋤鍬を取つて自分で働いて自分で飲み食ひして生活して行くといふのでなくして、矢張り經濟的に考へて一種の事業家的の思想を以て農村の仕事を經營して行くやうな狀態になつて來て居る。さうして尚ほそれよりも一層進歩した考へを有つて居るものは農事の如きものは割よい仕事でないといふことの考を持たぬものがない、是等の考を以て自分は農事の事業を棄てゝ資本家として働いて行かう、資本家として働いて行けば何も農業とは限らぬ、農業以外でも自分が發展して行けばそれで利益を得る、寧ろ此方が安全で興味が多いといふ考を持つて居るものが多いのである。さうして尚ほ現在の町村自治制の下に働いて居る所の農村の家長は自分の生活に於ける必要上より其自治制の下に働く爲めに多少の法律的政治的の智識を得て交際して居る。加ふるに地方には黨派的觀念がありますから、段々政治的思想に富んで來るやうな有様である。かくして昔の純粹なる農事を以て仕事として居る態度とは

餘ほど變つて居る。斯ういふ狀態になつた場合に於きましては此家長の態度が兒童に及ぼす影響がどうであらうかと申しまするに、既に斯ういふ家長の頭の中には兒童を以て社會生活の上に重要なる問題であると考へて居るものが尠ない、むしろ其人が一つの資本家としての態度を以て事業を經營するとか政治思想によりて運動を試みるとか、種々の計畫を拵へる人が多いのであつて兒童に向つての經營をする人が非常に尠ないやうである。さうして斯ういふ風な昔の農業家と違つた態度の農村の家長が出來ますれば多くは農村の家長と主婦との間に餘ほど懸隔が出來て來る。農村に於ける主婦の職分は所謂新らしい所の思想を懷いて居る婦人には出來ない、矢張り自分が朝早く星を戴いて起きて、夜は遲くまで働くといふやうな性質のものでなければ農村の主婦になれない。其農村の家長と主婦との間に著るしく違ふ點が出來て來て其間の思想の調和が餘ほど困難が多いやうになつて來る。此點は兒童の敎養の點から云ふと餘ほど不利益である。さうして前御話する如くに農村の家長は如何なる事業でも有望なれば自分が資本を投じてやらうといふ考を有つて居りますから、農業家にしやうといふ考から見ますれば子供に對して非常な違が起つて來る。即ち農村生活に於て最も注目すべき土著心、そこに居つて生活するといふ土著心が弱くなつて來る。何處に行つても金をもつて事業をしやうといふ考であるから、其土地面を以て必要なものとするといふ考がなくなつて來る。即ち鄕土の觀念を養成する考が減つて來る譯である、都會に於ては鄕土の觀念は之を養成するに困難だといふことを申しましたが、地方の生活狀態でも斯ういふ經濟上の方面からして一つの打擊を受ける有樣になつて來て居ります。

更に農村の主婦に就て御話をしますれば、多くは舊式的敎育を受けたものが多數である、其家長と較べますれば種々の點に於て違つて居るのみならず趣味に於て違ふのが當然である。さうして、幾分か或る

場合に於ては家長と調和しない所が出來て居る。だからして主婦は寧ろ家長からして見ると同程度の智力を有して居ないから壓制されるといふやうな苦痛を感ずることも往々ある。それでありますから或る農村の主婦の生活は一種の悲劇であるやうな狀態にある。さうして昔と違つて現代に於ては子供に教育を與へますから、そこで農家に生れて來た兒童は或る程度まで教育すると母親との間に於ける智力や感情が變つて來るから最初に主婦が自分の子供として十分に慰安を與へて呉れるだらうと期待したのが十分に滿足を得ない場合が多いのである。さうして又現在の有樣に於ては實に今の世の中は實力の世の中でありますから其子供が如何なる地方に生れやうとも十分實力を備へて居るときは社會の名譽ある位地を保つことも出來るといふことが眼の前に見えまするから、財産有るものは相當の活動をさせたいといふことは家長は勿論、主婦自身にも望む所である、そこで高等なる教育を與へた爲に土著心を破壞して郷里を飛び出して仕舞ふといふことになる。子供を教育するのは必要であるが、社會に名譽ある働きをさせたいといふ希望から起ると、土著心を失ひ都會に集注せしむることになつて仕舞ふ。此の如くにして農村の主婦は自分の經驗から考へて、どうも將來農村の主婦たることはむつかしい、自分の子供を農村の主婦にしない方が幸ひである、といふ感じを有つて居る、教育を與へて何か農村の主婦でない方面に於て家庭を造らせたいといふ希望を持つて居る者が多數ある。それでありますから女子は教育を受けて、或る程度までの智識の進歩を與へますると却つて農村以外の進歩に化されて仕舞ふことが多うございます。斯ういふ風な方面から見ましても土著の良民を造くるといふことは餘ほど現在に於ては困難なる有樣になつて居る。又今の所に於ては幾らか祖先傳來の考を以てやつて居る人があるけれども、何んでも經濟的概念に依つて事を解決させればよいといふ頭になつて來ますれば遂には資本家の態度を全然

執るやうになつて居りますから、土著の良民を農村生活に於て望むといふことは困難なことになつて來やうと思はれる。さうして現在に於ける農村の方の兒童の敎育されて居る狀態はどうであるかと言ひますると先づ昔の狀態とは違ひまして凡そまあ第三階級の變化を受けて居ると言つてよい、其第一階級といふのは卽ち舊式の農村兒童の敎育で、全く農村の生活に適當したやうに自分自らが直ぐに農夫に弟子入をして何も知らず何も分らずに實地に當つて覺える方法に依るのである。つまり農民の徒弟といふやうな養成法である。併しさういふ方法が段々に不完全であるといふことが明らかになり、第二階段に進んで來た方法が行はれた。謂はゆる地方に出來て來た所の簡易なる學校設備をしてそれに依つて農業敎育を與へるといふ方法である。此方法に依つて農民の子弟は餘程農業智識を與へられて居りますけれども、それ等も矢張り不完全の結果に陷ゐつて仕舞つて、或る地方の惡口でありますけれども洋服を著た百姓さんは何の役にも立たぬといふやうに、農學校の生徒は机の上の學問であつて、實地の方面に分つて居るものが少ないといふ批評を受けた。それで第三階段の改良された敎育法に變つて來た、之は理論と實地的との調和を得たる敎育法である。之れによりて兒童は農業敎育上には漸次善き影響を受るであらうと思はれる。然しながら大體上より見て、現在の地方の農民の子弟の將來といふものは餘ほど心配なことである。さうして現在は敎育は幾らか中央集權の方に傾いて居ります爲に何事にも都會といふものを中心として考へ之を模範とする傾きがあるからそれが爲に農村の經營も都會にやつて居ることを其儘にやるのをよいといふやうに考へて居るのは憂ふべきである。例へば農村の修學旅行でも都會に居る者と同じ方法を執つて餘り違はぬことをやつて居る、農村生活をやつて居るもの丶修學旅行の方法は自分の土著せる鄕土と密接の關係ある農產物を出したものが、都會に來たときにはどういふ方面に於て如何

に供給利用されて居るかといふことを觀察するといふやうな己れの地方を中心としたる特別なる修學旅行をするといふならばよろしいが、唯都會の生活をやつて居るものと同一の方法で修學旅行をやつて居るのは農村の子供の爲に不利益のやうに思ひます。それで農村の生活は斯の如く元來は獨特のことがありますけれども次第に都會化されて行く傾きがありますからして先づ遠き將來に於てはどうしても現在考へて居るやうな農村的生活といふものは長く繼くや否やといふことは實に問題である。一體殖民政策を執つて居る國に於ては、愛郷的觀念を養ふといふことに於て餘ほど特別の注意を加へたる敎育を必要とするであらうと思ひます。農村生活に於て兒童に及ぼす影響を申せば種々なることがございますけれども唯今御話したことが須要なる點であります。

此兩點を約して考へますればどうしても現在の自然の成行の儘に打棄てゝ置きますれば都會の兒童は不利益なる影響を受けて居ることが少くない。農村生活の兒童も同様で農村に伴ふ特別なる利益の性質もありますれども種々の憂ふべき事情がある。現代の兒童を適當に敎養し指導して行くには是等の狀態を能く考へさうして尙ほ社會の發展の爲に適當なる方針に依つて導いて行かなければなりませぬ。かゝる點から考へますれば此問題は啻に純粹なる敎育家の方面にばかり任かして置く問題ではありませぬ。矢張り斯ういふことは立派な活眼を有つて居る所の政治家的眼光を以て遠き將來を洞察するほどの人々の頭を要する問題であらうと思ひます。

叢談

食慾

伊藤要治

凡そ活とし活けるもの何等かの慾の無いものとては御座いませぬ、殊に動物、就中人間と相成りますとその慾は漸次複雑廣大となり、全宇宙の秘密を發いて森羅萬象の極めて幽微なる仕掛までも悉く解釋し盡さねば止まぬと云ふまでに大それた慾を起して參ります、而して又實際その慾の幾分かづつなりとも充たして行つて居る、汽船を造つては波の上を走り地下鐵道を敷いては地中を過ぎ、飛行機を製しては大空を翔ると云ふ有様で、何れも一種の慾が昂じて智慧の助を借りて、その慾の一分を充したものに相違御座いませぬ、して見るとこの慾と云ふものは恐ろしいものと云はなければならぬ、善にも悪にもこれが土臺となり力となつて居る、故に單に慾と云へばその意味は甚だ廣いことで、その間には至つて單純な低い慾より極めて複雑な高等の慾に至るまで幾つかの階段があつて、その頂と麓とを較べては丸で別種のものゝ如く思はれる、例へば犬猫のワン／＼ニャー／＼と云ふ慾と、人間の智識慾、少し言葉が穏かでないかも知れませぬが、道徳慾と云ふやうなものを較べますと、殆ど比較すべきものでないかの如くに思はれるのであります。實際高徳、大智、聖人、君子の説法や演説をワン／＼やニャー／＼と比較をしては罰も當りませうが、併し科學上で生物と呼びます部類の中には聖人も君子も火つけも泥棒も犬も猫も這入つて居るので御座います。學問と云ふものは誠に殺風景なもので御座いますが、致し方がありませぬ、科學上では御世辭と云ふことを許しませぬから止むを得ぬことであります。そこで生物、俗に所謂いきものと云ふ部類には、高きも卑きも共

通の慾がある、卽ち大きく申せば先づ生存の慾がある、活き度いと云ふ慾がある、これに附隨して食慾生殖慾などと云ふものが御座います、これは何れの動物にも共通の慾で、此等が土臺になつて、それが種々の事情に由て漸次高尙なる德と云ふやうな形にまでなるものと思はれるのであります。依て他の事は姑く措き、この食慾と云ふことに就て少しく穿鑿して見度いと思ひます。

何れの國に於きましても小兒の禮儀作法は先づ食事から始められるやうであります、又家庭に於ける禮も食卓の上に最もよく發揮されるやうである、聖人孔子の生立を敍べるにも俎豆を陳ね……などとある、祭祀には神前に俎豆を陳ぬるとは最も大切な事になつて居ります。此邊から見ましても食事、その食事を必要とする所の食慾と云ふものは非常に深い意味のあることゝ思はれるのであります。お腹が空いてもひもじうない、武士は食はねど高楊子、渇しても盜泉の水を飮まずと云ふのも畢竟飢渴と云ふことが有ればこその美德で、矢張食慾が土臺に成つて居るのであります。

さて此の食慾と云ふものゝ出來を糺して見ますればこれは饑飢の前驅者であります。一體人間の身體は御承知の通り細胞と云ふ生物の寄り合で出來て居りまして、その活きて居るについては體內に分解作用が起り、その結果身體を構成て居る所の物質が消耗る、そこで生存を繼けるには、どうしてもその消耗ただけの物質を補はなければならぬ、然らざれば身體が衰弱へる、果ては死すると云ふ、生命がけの機能で御座います。斯樣に身體の物質が消耗つて完全の身體に缺目を生ずると云ふ場合に所謂「ひもじい」と云ふ饑餓の感覺が起る、その饑餓と云ふまでに至らぬ前に食慾と云ふ前驅者があるのであります。且つこの食慾と云ふものは、此の身體を保つには如何なる食品が必要であるか、又幾何の量を必要とするかと云ふやうなことまでも標準を立てるものであります。

生理學者或は醫學者が、一個人の身體の物質代謝、或は榮養狀態を觀察して、此人の身體を健全に保つのには蛋白質が何瓦、含水炭素物が何瓦、脂肪が幾瓦と云ふやうに非常に面倒な計算をして何とか保てぬことはありますまいが、容易なことでは御座いませぬ、人には嗜好と云ふことがあり、年齡に依て物質代謝の平衡を保たなければならぬ、即ち小兒の發育期に於ては單に今日の身長體重を保つのみならす、更に生長するに必要な榮養を要する、又男子と女子に依ても多少の差があり、運動の多少、加之ならず味覺、嗅覺、視覺、その他精神の狀態、貧富の程度等までも關係を及ぼして參りますから、一々これ等の事柄を參酌してその人に最も適當な、學理上少しも申分のない獻立をするなどと云ふことは、迚も出來た話では御座いませぬ、況やこれが病人となりますと、又一層複雜の關係が起つて參りますから醫學の方に於きましてはこの榮養と云ふことは非常に六ケ敷いことになつて居りまして、なか〳〵素人方の考へて居られるやうな單純な譯のものではないのであります。然るにこの食慾と云ふものは、不思議なもので、誰敎へねど、身體に必要が起れば食べ度いと云ふ考を起すのであります、即ち空腹と云ふのは胃の神經から起つて來る所の一種の飢餓の觀念でありまして、これに嗅覺、味覺、視覺などの反射作用が加はつて所謂食慾と云ふものが起るのでありませうが、此の食慾に導かれて欲しいものを食べる而して一程度に至ると云ふと、もう澤山だと云ふ所謂滿腹の感が起り、それで以てちやんと身體が保たれて行く、醫學者が苦心慘憺してもなか〳〵思ふやうに出來ぬ切盛を何事もなく、食度い、これが好いもう澤山と云ふやうに食慾の指圖に依て遺憾なく行はれると云ふものは實に巧妙な働と申さなければなりませぬ。

斯樣な譯で、この食慾と云ふものは身體竝に精神の狀態とは極めて密接の關係を有つて居るものであります。殊に小兒に於きましては、食慾と發育とは殆

ど竝行するものでありまして、年々規則正しく體重を増して參りますのも全くこの食慾に左右せらるゝもので、身體が延び、體重が增すにはそれだけ食慾が盛でなければならぬ、小兒が若し物を欲しがらぬと云ふやうな場合には、別に身體に惡い所が無いやうでも必ず醫師に就て健康診斷を受けることが極めて肝要なことであります。尙ほ二三の病氣に於ては非常に食慾が亢進して來るものも御座いまするし、又食慾に由て初めて病氣が恢復しかけて來たことを知ることもあり、これに由て初めて治癒する見込の立つこともあると云ふ具合で、治療上には大關係のある事柄で御座います。

尙ほ前にも述べました如く、視覺、嗅覺、味覺及び觸覺等の感覺と、精神感作と相俟て食慾を起すものでありますから、一方から云へば食慾は神經の仲立に依て身體の食品要求を意識に上す所のものであり又一方から云へば一種の慾望であつて精神作用の隨意的表現であるとも言へるのであります。卽ち彼の食物を食べたならばさぞ美味からうと云ふ快感に伴はれて食慾が起る、又厭らしいものであると云ふ不快感に由て食慾が減じ或は胸が惡くなる、斯樣に精神狀態と食慾とは響合ふものでありますから、何か悲いこと又は心配事などのあるときには食慾の振ふと云ふことは殆ど無い、これに反して樂しいこと悅ばしい事のあるときには自然と食慾が進む、從て感覺器若しくは精神上に故障が起れば直ちに食慾に影響を及ぼすのであります、例へば食物の中に髮毛などが這入つて居るのを見ると、もう食べる氣がない、往々嘔氣を催して來る、食器が不潔な場合も同樣である、或は臺所に行て、その調理法の不淨な有樣を見ては全く食慾が無くなる、又實際淸潔な滋養に富み且つ味も宜しき筈の物であつても、その外觀が如何にも穢はしさうに見え、不自然の色を呈して居る場合には、これ亦決して食慾を振はすものでは御座いませぬ。又朝夕同一の物ばかり膳に上ぼせては、如何に美味かるべき筈のものでも決して食慾を

進めるものではありませぬ。又身體に苦痛のある場合には食慾が減ずる、從つて榮養が衰へる、斯樣に精神と食慾、食慾と榮養、榮養と精神と云ふやうに互に極めて密接の關係を有するものでありまして、これが又間接に非常に廣く深く意外の點まで關係を及ぼして居るもので御座いますから、一家の主婦たる人は、食慾の如何なるものであるか、又その關係する所如何と云ふことを知ることは、一家の家政上にも衛生上にも、將た社交上にも必要なことではあるまいかと思ふのであります。

衛生に對する日常の罪

ドクトル　ベンダー

最近五十年間に醫學が建てた所の實地上の大功績は病氣を治すと云ふことよりも寧ろこれを豫防すると云ふことの上にあるので御座います。固より藥物學的又は理學的の療法と云ふことも非常に進歩をしたには相違ありません、殊に血清療法などは多少發病を防ぎ、病人の爲には非常に重要のものであると云ふことは決して否定する譯には參りませぬ、併し最も有名な、又最も效力顯著と稱せらるゝ「チフテリー」血清療法が行はれるやうになつてから、「チフテリー」と云ふものは亡くなつて仕舞ふたでありませうか、矢張昔と同樣に發生する、小流行のこともあり大流行のこともあり、性質の比較的善いこともあり、甚だ惡性のこともありまするが、相變らず所々に流行して可惜人間の蕾を枯らして居るのであります。彼のジエンナ氏が種痘法を發明して疱瘡を豫防することの出來るやうにし、リスター氏が消毒法、次で防腐法に依て創傷傳染病を防ぐことを敎へて以來、何の位これが役に立つたか殆ど言ふことが出來ない、この凱旋に對して「チフテリー」の治療功績はとても云ふに足らぬのであります。今日に於ては虎列拉などはもはや怖るゝに足らぬものとなりました、と云ふのはつまり吾々がその病原物の何物であ

り、その生活條件の如何なるものであるかと云ふことを精確に承知して居り、衞生法の進歩によりて、縱令たま／＼發生することがあつても立所にこれを撲滅することが出來るやうになつたからであります次に國民の最も強大なる敵たる結核病に就て見るにどうであるか、少なくとも吾國に於ては逐年その死亡數が減少して來て居ります（日本に於ては逐年増加しつゝある、實に遺憾なことである、憂ふべきことである）これは決して以前よりも良い藥を藥店から買ひ得る爲ではない、昔とは異つた戰術を以て敵に向つたからであります。卽ち吾々は結核に對して敵が吾々を襲撃するまで、ぢつとして待てはゐない守勢を棄てゝ攻勢に移つたのであります。社會衞生の旗を翳して敵の棲家を顚覆し、その生活の道を杜絶せんが爲にその本陣を突いたのであります。これがそも／＼吾々の效果を獲たる秘密でありまして、卽ち豫防撲滅と云ふことが現代醫學の鯨波となつて全戰線に互つて勝利を得たのであつて、決して治療法の御蔭ではないのであります。治療藥そのものは餘り大した價値のあるものではない、只昔からの習慣で以て、止むを得ぬ場合の助とするだけのことであつて、出來得べくんば用ひずに濟さうと云ふ希望を以て使用することあるに過ぎぬのであります。

勿論吾々がこの理想に達するまでには容易なことではありますまい、種々の困難と戰ひ、種々の障碍に打勝たなければならぬ、實際幾多の保護事業あるに拘らず、尙ほ多數のものが不幸の狀態にあるのを見れば思半ばに過ぐることであります。

住居監査法の行はるゝに拘らず、尙ほ常に多數の人間が、不十分な、狹い、通氣の惡い、光の無い、室内に雜居して居る。往々健康者と病人とが同一の牀而かも虱や南京蟲の棲むでゐる牀上に同衾して居る、淸潔と云ふ極く簡單な命令すらこれを守ることが出來ない、これに加ふるに往々榮養が不十分と云ふ有樣である。工業衞生は勞働者の幸福の爲に隨分盡力して居るにも拘らず、多數の職業に於て矢張勞

働者の生命と健康とを脅かして居る。今日の經濟狀態に於ては、衞生上から見れば一層ゆかしき事ではあるが、國民經濟上彼の自宅工業、手内職と云ふやうなものを廢する譯には行きませぬ。併しこれが健康上如何なる危險を包藏してゐるでありませうか。先づ從來世に知られたる事件を除くも、尙ほ衣服や玩具などに依て恐るべきヂフテリーや猩紅熱が裏長屋の仕事室から別莊の大廣間や小兒室に持運ばるゝことは決して稀でない。又今日の狀態に於ては、多人數同棲することを避け、居室と仕事室を別にすると云ふことも出來難いのであります。又食品の賣店或は飮食店等に就てこの事を考へれば、これを買ふ所の公衆の健康上には重大な關係あることを認めなければなりませぬ。先づ次の如きことを一つ考へたならば何うであらう。こゝに一人の牛乳屋がある、その子供が猩紅熱或はヂフテリー又は窒扶斯に罹つたとして御覽なさい、病室の傍の店には牛乳桶が置いてある、而して夜間はこの兩室の間の戸は全く開放し或は半ば開かれる、そこで翌朝には御華客は疑もなく病毒の感染された牛乳を買ふことになるこれが傳染の源となることは屢〻證明された所であります。殊に牛乳を生で或は十分煮ないで飮む場合に傳染するのであります。これが小さな麪麭菓子屋等になると尙ほ一層危險である、その一例を擧げて見るならば、麪麭屋の主婦さんがヂフテリーに罹つて居る小兒の口を拭いてやる、其時店前に御客が見えると、直ちに起つて洗ひもせぬ手で以てビスケットなどを數へて渡すことになります。

凡の今日の社會の狀態に於きましては、甚しき衞生上の不良狀態は漸次に改まつて參ります。迚も一擧の下にこれを排除することは出來ませぬが、少なくとも避け得べきだけの害毒は全力を盡してこれを少なくすると云ふことに努めなければなりませぬ。然るに衞生學上斯くなければならぬと云ふことが分かつて居るにも拘らず、日常總ての階級を通じて殆ど數へることの出來ない程の種々の健康上の罪惡が行

はれて居るのであります。私は次に、役所の方から十分注意されて居らぬ所の二三の衛生上の罪を舉げて見やうと思ふのであります。尤も今こゝに述ぶる所の要求は既に屢々言はれた所でありませう、併しその實行を見るまでは、繰返し繰返し幾度でも公衆に訴へる必要があると思ひます。

先づ第一に非常に非衛生的な習慣をこゝに一つこゝに述べなければならぬ、それは何かと云ふに、屋敷内で敷物を敲き又塵埃布を窓からはたくことである（譯者曰く、この敷物は我邦の疊に相當す）。

先づ一つの狹い屋敷があるとする、而してこれに向て多數の窓が開いて居る。さあ敲日（大掃除）となると、バタ〱が一時間以上も續く、大變な音樂である。これが抑も、私の宅は益す非常な塵埃で充たされると云ふ苦狀に對して、何れだけの意味のあることでありませう。若し外に出たときに自働車が街道の砂烟を捲いて通過する、而して一寸口や鼻に塵埃でも這入らうものなら、吾々はこの傍若無人の行爲に對して人殺し呼はりをする、然るに敷物から出る所の灰白黄色の塵埃が一時間も二時間も引續き、無遠慮に寢室內に侵入する、而して大切の空氣を根本的に不良にするが、これは平氣で我慢をして居ると云ふのは餘程妙なことであります。これも矢張自働車が起てる所の土烟と餘り異はないのであります先づ一寸考へて見ましても、毎日何の位靴で以て不潔物を街道から持つて來てこの敷物に塗込むか分からない、種々樣々な人間の分泌物が段々牀の上に溜まる、種々の所から由來せる病原物、例へば大腸菌であるとか結核菌であるとか云ふやうなものは、敷物などの上には隨分長い間保たれて居る、而してこの敷物が十分掃除されると云ふことは極めて稀なことである、これから推して考へて見るならば、これをバタ〱打敲く際には一體どの位の有害物質が呼吸器內に侵入するか分からない、今日の細菌學上の見地からすれば、この無駄骨折の淸潔法は同じく有害な方法である、敷物は決して敲いただけで淸潔に

なる筈のものではないのであります。疾病豫防撲滅策に於てこゝにも一つ挺を入れて有害な時代後れの方法を改善したならば、必ず結核死亡率は一層速かに減降するであらうと思はれます。警察の方では衛生狀況に十分注意を拂つて幾多の良い方法を講ぜられて居ることは吾々の等しく感謝する所でありまするが、何うかこの屋敷内に於て敷物を敲くことを禁じ、家屋の後有者には、實用的で衛生的にも申分のない眞空掃除機を設備するの義務を負はされんことを希望して止まぬのであります。今日では頗る廉價で、立派に役に立つ眞空掃除機を備へることが出來るのであります。

〔眞空掃除機に就ては婦人衛生雜誌第二百六十九號に「塵埃と掃除」と云ふ題で遠山博士の講演が掲載されてありますから御參考あらんことを希望致します〕

次にこの敷物敲よりももつと宜敷ないことは、蒲團の上敷、雜巾、襤褸のやうなものを窓から振ふてその塵埃をはたき出すことであります。新しい空氣を入れやうとして窓を開ける、或は椽側に出てゐる又は街中を通行する際に、上の方から塵埃の雨を浴せ掛けられる、それが甚だ不潔なものを含むで居り病原菌を含むで居る場合も決して稀でない、又子供等が外で遊でゐる、そこへ以て來て窓から室内の塵埃を投げ掛ける、その内には丁度皮膚から落屑して居る所の猩紅熱患者が住むでゐたと云ふやうな事がある。斯樣なことがあり得るとすれば、且つ皮膚落屑に由て傳染すると云ふことを信ずるならば、此の場合に感染することはあるまいとは、既に大懐疑家たらざるを得ない往々その由來の分からぬ傳染が端なく斯樣な所より説明がつくと云ふ場合が少なくないのであります。固より往來に面した窓から物を棄てると云ふことは警察令で以て罰することにはなつて居りまするが、この惡習慣は廣まつて居りますので、警察でも迚も十分に取締ることはむづかしい只一般人民に、その宜敷くないことを説明して、漸

次に改むるより外致方がありませぬ。（以下次號）

自働車と衛生

小寺照二郎

近頃自働車が益々流行して來る。けたたましい音を立てゝ、恐ろしい速力を以て疾驅し、塵埃を渦卷き起て、惡臭を吹掛け、往來の人々を威嚇しつゝ傍若無人に馳過ぐる、往々狹い道路をも無遠慮に通行する、特に東京の如き不規則極まつた、而かも雨天には泥濘脛を沒するやうな惡路、晴天に風立てば只さへ紅塵萬丈と云ふ衢、人力車、自轉車、馬車、電車、往來織るが如き中を不格好な大きな自働車が泥を一間ほども跳飛ばしながら遂かまはず疾驅すれば、威嚇され、追卷くられた者は、何れも恨めしさうに切歯扼腕して、惡死斯の臭を嗅ぎながら睨で見送ると云ふ有樣である、實際吾々窮民共は、これに同情する、然ればこそ花見の自働車を針金に引掛けて顛覆させ、大怪我をさせたなどゝ云ふ復讎的の惡戲も行はれる、石を投げつけたり、爆裂彈をほうりつけるやうなことが始まつては、ゆゝしき大事である。實際自働車も屢々人に怪我をさせ、迷惑を掛けることもあるやうであるが、併し凡て新しい交通機關の出來たてには、とかくこれに對する非難があるものである、特にこれを利用することの出來ない第三者の側から非難攻擊が出て、往々これに迫害を加ふる例である、駕籠が人力車になつた際も、どうも人力車は威勢が無い、誠に見すぼらしい間の拔けたものである、且つ乘るものも危險であれば、往來の人々も危險少なからず、怪しからぬ乘物であると云ふ非難が大分あつたと云ふ話である、汽車に至ては尙ほ一層非難攻擊の甚しいものがあつた、往々迫害を加へ妨碍をしたものである。然ればこの自働車に對する非難も矢張これに類する所があるのではあるまいか。此等の感情問題は姑く措き、こゝには自働車と衛生との關係に就て論じて見たいと思ふ。これには

衞生上頗る宜敷ない所もあるが又幾多の有益な點もある、その悪い點は又別に論ずることゝして、今日は先づその善い所を擧げることにする。

私は別に自働車屋から賄賂を貰つた譯ではないが、丁度ヂー、ヒギイ子と云ふ獨逸の雜誌にドクトルゲオルグ、ヒルシユと云ふ眼科醫が、この事を論じて居るから、これを一つ譯して紹介することゝする。但しこれは全然自働車の辯護で、隨分牽强附會の譽め方と思はるゝ節もあるが、兎に角そのまゝを譯述して諸姉の批評に任かすことゝする。

自働車と衞生との關係を論ずることは、此處に許されたゞけの紙數では迚も盡すことは出來ぬに依て、只自働車の普及が、直接これに關與せざる第三者の一般衞生上に及ぼす所の影響について話すに止め、その詳細の論は「自働技術叢書」に掲載した「自働車運轉者の健康狀態及び衞生」と云ふ論文に讓ることゝする。

素人、就中まだ自働車に乘たことのない人は、自働車の衞生的感作如何の問題には、大抵餘り目出度からぬ意味に答ふる所の此の如きものがある、即ち塵埃、臭氣、人間の傷害――これがその結果である。效能？何處に效能などがあらう？

此の如き淺薄なる觀察が遺憾ながら廣まつて居る、これは啻に普通人のみならず、吾々國民の代表者たる人々も多くは、自働車の公共的影響に關して此の如き概念を懷いて居る、これは吾々の自働車規則、税金及び交通規則の運用等に就て見ても分かることである。

實際、自働車は一般に誤解されてゐる所の恩惠者である――余は讀者諸君も直ちにこの説に贊せられんことを希望する。

凡そ新しい物の、價値があるか價値のないものであるかと云ふことは、只これに類せるもので、從來人のよく知つて居るものに比較して始めて決定されることであつて、特に自働車は馬車及び騎馬等と比較して見ることが必要である、自働車は主として此等

のものを代理補償する任務を有つて居るからである。

馬を繋いだ乘物を觀察するならば、先づ動物を使用するが爲に公衆衛生上に及ぼす所の不利益な點が直ぐ眼につく譯である、卽ち動物の糞尿に依て道路が汚され、それが蹈にぢられ、引き碎かれ、遂に風や穿物に依て人間の住居に持運ばれる、その中には恐らく病氣の種も含まれて居る。それで大都會に於ては、此等の汚物を速かに道路から除く爲に出來得るだけ盡力して居る、而してその爲に莫大の費用を掛けて居ることは普ねく人の知てゐる通りである。

第二の害は牛馬に依て道路を蹈碎くことである、就中荷車に依て道路の破壞することが甚しい、これが道路の穴の原因であつて、此等の乘物も互に迷惑を感じ、自働車には交通上の大妨害をなすものである且つこれと同時に道路の排泄物を平等に疏くことを妨げ、汚物の集積をそのまゝに溜まらしむる害がある。

又動物が屢々罹る所の病氣、例へば蹄爪病、馬鼻疽、脾脫疽と云ふやうなものは、他の家畜にも傳染し人間にも感染することがある。さなくとも動物を掃除したり飼養したり廐の世話をすることは決して健康の爲になる仕事とは云はれない。

今吾々がこの動物の勞力に代ふる所の自働車を見るならば、先づ公共の道路を不潔にすると云ふことは全然ないと謂はなければならぬ(?編者)。

第二の點、卽ち通路の損害と云ふことは、輕い、彈力性の空氣管で以て走る所の乘用自働車には無いことで、只乘合自働車及び充實護謨輪の荷車は溝のやうな痕を殘す、特に同一通路を規則正しく使用するときはさうであるが、併し重い馬に牽かせる通常の荷馬車に由て受くる所の損害は、これよりも惡いことは疑のない所である。

動物の病氣の感染は、發動機を利用すれば全然なくなることは勿論で、その手入れや掃除も動物に比すれば遙に淸潔で衞生的である。

動物の爲に受ける所の外傷は、自働車に由る――それも常に只自分が惡い　怪我よりも頻繁である、これは保險協會の保險料計算書の證明する所である。
自働車運轉に依る第三者の危害は、始めは非常に重く見られたものである、然るに災害及び責任保險料は二年前から見ると最早半分にも上らないのであるこゝに忘るべからざるは、自働車所有者に對する責任法は相變らず嚴重なことである。自働車の速力と重量とは固より第三者を怪我せしむる可能性を高むるけれども、併し運轉法が上手になれば又斯樣な機會が少なくなる、然るに荷物を牽く動物や騎馬などは物に驚き、驅出し、顚倒すると云ふやうな危險が多くなる。
自働車の通行速度の早い爲に塵埃を捲き起てると云ふ非難は、これは尤である。併し自働車は道路掃除及び維持費を節減するから、歩行者に由ても亦大に使用されて居る所の街道にタールを塗つて、塵埃の起つのを防いでも、自働車が盛になるからとて別に市町村費を增すと云ふ譯はない筈である。
尙ほ此處に他の比較斷と同じく注目すべきことは、一臺の自働車は以て數臺の馬車の代りをなすことである、余の見る所にして誤らずんば、伯林警視總監は五臺の乘合馬車の代りに一臺の乘合自働車を當てることを承認して居る。
自働車の燃燒瓦斯に由る空氣の惡變と云ふことに就ては、非難者の不興を來すべき記憶を喚起さなければならぬ、今から十五年前の伯林邊の停車場を考へて見るがよい。他國の者などは、別に聞かずとも、鼻で以て停車場が分かつたものである、卽ち分解した馬尿の蒸氣――アンモニヤク、馬尿酸――は二三百メートルも遠くから無遠慮に報告したものであつた。これに反して今日では立派な乘合自働車が吾々を乘せて吳れる、而かも止まつてゐる時は少しも空氣を惡くすることはないのである。茲には、今述べたるが如き不都合を、自然の事として不平もなく堪へてゐた時代を『昔は善かつたものだ』などゝ云ふ

權利は毛程も無い譯である。

尚ほ自働車技術は、塵埃や臭氣の煩累をます〱少なくしやうと努めてゐるから、これもやがて確實な效果を得るに違ひない。

更に散歩をする者は、不埒な自働車と罵るが、その散策家の爲に自働車が有益なことを注意しなければならぬ、と云ふのは、馬車の如きものは動物の糞尿に由て昆蟲の害を増すのに、自働車は拔群の昆蟲捕獲器たることを證明さるゝことである。即ち大抵の自働車の前端には所謂冷却器と稱して、無數の小さい孔を通して風を入れる水管系統がある、自働車が走るときには、これが、その後に取附けてある換氣裝置に由て強く後の方に吸はれるものである、それ故に總て自働車の近くに來る所の昆蟲は恰も漏斗の内に這入るやうに冷却器の孔の處から發動機に敲きつけられる、少し暖かい季節になると、暫時間乘廻した後でも、發動機の兩側には幾百の蠅や蚊が死んでゐるのを認める。

自働車には斯の如き效能があるから、恰も昆蟲を撲滅する所の鳴禽に等しき特殊の保護或は待遇を與へても宜しいではあるまいか。

余は又この自働車の特性は、熱帶地方に於て、熱性病を傳播する所の蚊の類を撲滅するに利用し得ることを認めた、

頗る不十分なる觀察なれども、自働車に關して以上述ぶる所の事實は、最良の文明の賜も、只徐々に反對に打勝つて一般からその價値を認められるもので、最初は兎角その缺點のみを訴へ、優れた點は看過されるる傾のあるものであると云ふことを明かにし得たと思はれる。

育兒

不幸なる家庭の産物

市場鴨村

昨年の暮のことでした、家出の少年に就て都新聞紙上に諸家の御意見が見えました、其際私にも其意見を徴せられたのでしたが先づ御辭退し申して當時卑見は發表しませんでした、同じ昨年の暮でした莊司君より舊稿は暫く其儘にして年の改まると同時に何か短篇のものをとの御注文でありました、實は十年前に遡つて棄兒に添えてありし遺書やうなものをば一々調査し、之れを列記して親の心の解剖をば試みやうと思ふて居つたのであります、然しこの調査は却々困難でありますから無論一ケ月や二ケ月の日子を要さねばなりませぬ、されど早晩貴紙の餘白を拜借して是非とも掲載してと思ふので有ます。

家出の少年……浮浪兒……この憐れなる境涯にあるもの百三十四名に就て、極く最近に調査したものがありますからこの浮浪兒に依つて得たる新なる物語をば叙して聊か私の責を防ぐことゝ致します。

偖て私の調査したといふ浮浪兒は年齢八歳より十五歳までのものであります、勿論浮浪兒と申すからには扶養義務者の手を離れて市内各所を彷徨し乞食、魚腸拾、掻浚、窃盗、掏摸杯を渡世として居る惡化少年を指すのであります、彼等とて先天的に産れついたと申す譯ではないのです、彼等の父兄中には立派な小學校教員もあります、相當地位ある官吏又は會社員もあります、相當なる資産家もあります、決して貧乏人の子弟のみとは限ぎつて居らぬのです、然らば如何にして如此浮浪兒が産れたのであるかといふ疑が起るのです、そこで私が調査の結果はこれにこんな解決を與へて居るのです、卽ち家庭が滿足でなかつたのである、古き書物に斯麽ことが書い

てあります、市に人を殺すものがあるとソレは〲大變な騒ぎをしますが平生の衛生が不行屆で人の死んだのには少しの騒ぎもしません、然し人間としては前者より後者に注意すべきである云々と、家庭の善不善もつまりは刃や棍棒で人を傷害したやうに結果が直にそこに現はれぬものですから、ともすると不知不識自己の煩惱に囚はれて家庭をおろそかにする方のあるのは呉れ〲も遺憾の極みであります。

これより調査の報告に移りませう、家出をして浮浪に陥つた原因は繼母の虐待が第一位で次は繼父の虐待です、而して其兒が孰れも盗癖に泥んで居るのです、私がかう申すと繼母といふものは先天的惡人のやうに聞ゆるかは知れませんが、現在繼母たる地位に立たるゝ方の苦心も並大抵のものでないことは承知致して居ります。

實に同情に堪へぬのです、實父の僻み子供の僻み世間の噂是等は實に繼母たるものをして精神的に死なしむるものです、此等の點より察しますと繼母の心腸の亂れがちになるのも強ち無理はないので終にはこれが虐待といふ形になつて現はれるのでせう、そこで子供は繼母の仕打をば恨めしく思ふて家出をするやうになるのです、繼母虐待と記すものゝ私は全然これを繼母の罪とのみ認むる譯には行かず家庭に一ッの忌はしき僻み即ち虚僞といふ雲が漂ふて居る結果であるから、家長たるべきものゝ罪も多少其中に含まれて居るものと見るのが正當かと思ひます、この繼父繼母の虐待より盗癖を形成したものが亦頗る多いといふことは前述の如くです、然して百三十四人の浮浪兒中兩親の手に育てあげられたるものは僅々三十七人即ち全數に對して二割七分に過ぎぬのであります、餘の七割三分は父のみの手に養育されたるもの、母のみの手に養育されたるもの、實父繼母の手に養育されたもの、繼父實母の手に養育されたもの、養父母の手に養育されたもの、親戚の手に養育されたもの等であります、約して申さば家庭に缺陷があつたものです、缺陷ありし家庭に躓くのは

子供其もの〻罪とは申されません兩親の手に鞠育さる〻子供程世に幸福のものはありますまい、次に家出して浮浪するに至りたる年齡はと申すと十歳のものが二十五人、十一歳のものが二十四人、十三歳のもの二十一人といふ順序です、これに依つて見ますと十歳より十三歳までの年齡が尤も子供の厄年とも申すべき危險時代とでも申すべきでありませうか、浮浪期間は一年未滿が尤も多數でこれが百一人を數へて居ります、而して彼等浮浪の場所は矢張淺草公園であります即ち百三十四人中六十八人までは該公園地を中心として吉原遊廓附近を彷徨して居つたものです、浮浪の動機中尤も留意すべきは例の活動寫眞に囚はれたものです、一度淺草公園へ伴はれて活動寫眞を見物すると彼の千變萬化の映畫の面白さに囚はれて、子供心に最う一度見たい見たいものであると思ふ一念がかうじて浮かと家を出ます、するとすぐに淺草へと足を運ぶ歸りが晩くなる、お父さんかお母さんに叱かられはせまいかと猶も歸宅を躊躇します、終には惡友に誘はれて其儘不良少年團の仲間入りをするやうになるのです、如此動機に依つて浮浪兒となつたものが全數の一割強を占めて居るのであります、次は奉公先主人の虐待より浮浪兒となつたものこれも相當にあります、次は繼母に遺棄されたるもの親戚に遺棄されたるもの等でこれが十一人あるのです、憎惡の念より來たものと貧より來たものとありませうが兎に角遺棄せられたる子供は不憫のものです。

以上の諸點を總括して浮浪兒の由來を考案しますとかういふことに歸著するかと思はれます、第一は家庭が滿足でなかつたこと、第二は家庭の滿足でなかつた爲め子供をして不知不識盜癖に泥ませたること、第三は扶養義務者が家庭に重きを置かざりしこと、第四は扶養義務者が外誘物に注意せざりしこと等であると思はれます、銘々の家庭が堅實でいつも春のやうな温かな氣分に充されてありさへすれば、子供が浮浪の境涯に陷り不良少年として世間から取

り沙汰さるゝやうなことは先づ以て皆無といふても差支ありますまい、終に私が取調べました浮浪兒中慘の慘たるものと思ひました女角兵衛でありしスイといふものとの問答を掲げて見ませう、扶養義務者の手を離れたる兒が如何に悲慘の運命に飜弄されつつあるか、これを救濟するの必要は必ずや讀者諸君の腦裡に浮ぶことならんと思はれます。

○は私の問で△は彼れの答でありよす

○お前の名は

△私の名はスイといひます

○年は

△十一になります

○苗字は知らないのかい

△苗字なんていものは知りません

○親方の名はなんといふの

△親方の名は三ちやんといひます

○幾つの年角兵衛獅子になつたの

△四ツの時お父さんに死なれてから

○お母さんはどうしたの

△お母さんは私を角兵衛獅子の親方へ賣つて見えなくなつてしまいました

○角兵衛獅子はいやかい

△角兵衛獅子は最う懲り／＼しました

○稽古はつらいかい

△稽古は隨分つらいわ

この時この手と足とを見てくれと腕をまくつて示されました、見れば兩腕は紫色と變じて居つた、足には太鼓の撥で打たれたといふ傷があり／＼と見えた、お負けに臀には五錢白銅大の灸痕が三ツ四ツあつた、これは稽古に身が入らぬといふことで仕置の爲めすへられたのださうです。

○お飯は一日に幾度喫べるの

△お飯は朝と晩だけです警察では三度喫べさして下さるから嬉しかつた秋刀魚のひらきが大へんにおいしかつた

彼れは親方の虐待に堪へかねて窃と木賃宿を拔け出

て放浪の結果淺草警察署で救はれたのです、而して彼れは警察署で日に三度のお飯を與へられたことをこよなき喜びとして居つたのです。

○それなら晝のお飯はどうするの

△晝のはたべずにしてしまいます

○一日にどの位貰へるの

△四十軒や五十軒歩いたつて拾錢とは纏まりはしません、それでも四拾錢か五十錢貰つて來ないと木賃宿へ歸つてからひどい仕置をされます、お飯を喫べさせられなかつたり、煙管の雁首で敺打られたり、太鼓の撥で打たれたり、お灸をすへられたり、いくら泣て詫びても宥してくれないのです

云々と。

彼れや原籍地を知らず、苗字を知らず、剰へ兩親の名前だに知らず、親戚の有無をも知らず、只無慈悲極まれる親分なるものゝ犠牲となつて憐れなる生涯を送つて居つたのであります、浮浪兒中には、如此惨の惨たるものがあるといふことをば御承知していたゞきたいのであります、若しも銘々の家庭が充分に整理されて居らず、何處かに缺陷がありますとそれが原因となつて子供の前途を謬らしむることがあるのです、家出した子供が一度この浮浪兒團に投じましたが最期悪化することは必定です、一年浮浪の生涯を送らんかこれを矯正するには少なくとも三倍の日子を要するのです、富豪の家庭必ずしも油斷すべきではありません貧乏人の家庭猶更同情に値します、不幸なる家庭の產物之れをも社會問題の一に數へて御互に研究して見たいと思ひます。

母親の誤り

醫學士　竹内薫兵

別に珍らしい事では無いが未だ未だ世の多數の母親達は同じ様な誤りを繰り返して居られ、而して同じ様に御子様方に關して悲しい目に遇つて御いでになりますから茲に一つ二つ同じ様な事を繰り返す次第

であります。

先づ第一に此頃で著しいのは咳嗽の出るお子樣の事であります。大抵なお母樣は私共の處へお越しになつて早く咳嗽が止まつたら嘸子供は樂でありませう、何卒咳嗽を止めて下さいと申ます、私共もお子樣を早く樂にして上げたいと思ひますからそれ相當の手當をいたします。ところが如何かすると咳嗽は思ふ樣に止まらない事がある。するとこれは病氣がよくならないのである。醫者の技倆が下手だからであると云ふ事に定めて終うお母樣が多い。畢竟は醫者はお子樣の苦しみも除いて上げたいと思ふが、それよりも外にお子樣の御病氣を治して上げたいと心掛けて療治をし、お母樣は苦しみさへ取ればそれで病氣は治るものだと思ふと云ふ此二つの考へ方に差異があるからである。

咳嗽の出るには出るだけの原因があつて出るのであるから其原因を治さない中は容易に止まるものでない。尤も咳嗽を止めるだけは譯の無い事で直ぐにも止まるが、それと共に或は子供は死んで終うかも知れない。咳嗽の出る原因は種々あつて或は痰の蓄まつたための事もあり、肋膜炎や肺炎の樣に重い病氣のための事もあり、咽喉に何か病氣のあるための事もあり、百日咳の樣にひどく永びく病氣の事もあるいづれにしても咳嗽ばかり止めても容易に治らないものである。

○下痢とても同じ事である。早く下痢を止めたら病氣は直ぐにも全快しそうに思ふが、實際は中々そうでない。只止めるだけなら藥を用うれば見て居る間にも止まるがそれでは命にも拘はるのである。下痢を起こすのはお腹に置いては惡るいものが出來たから出して終うので之れをお腹へ無理に止めて置けば如何な事になるか判らないのである。○嘔吐も同樣、止めるのは決して病氣の治る事ではないのである。のみならず無闇に止めやうとすると必ず大害を來たすと云ふ事をよくお飲み込みになつて欲しいのであります。

それから大切な事は發疹であります。又腫物であります。咳嗽だの下痢などでは大變神經質になつて早く止めて下さい〳〵と急ぎ立てるお母様達が發疹や腫物には案外非常に冷淡で、手を附けないがよいなど、仰しやる事であります。尤もこれは昔の人の申ました事を傳へ〳〵て今日のお母様達も然様仰しやるので、腫物は身體の精氣が外へあらはれて來たのであるから無闇に手を附けずに放置く方がよいとか、發疹を治すと內へ追ひ込んで却て大病になるとか申ます。實際この考のために昨年の麻疹だけでも何百人のお子様が手後れになつて逝くなつて終つたでせう。發疹から起きる腎臓炎だの熱の發る病になつて、遂に大病になり、取り返しのつかなくなる事は決して〳〵珍らしくない話ではありませんか。腫物を手を觸れない樣にするのは一面から見ればよい習慣である。卽ち消毒しない手などを觸れないのであるから身體內へ傳染さする機會が少くなる譯である。然し又恐ろしい害も之れに伴ふ。卽ち腫物の毒が一旦身體內へ進んで行つて血の中へ入ると取り返しの附かなくなる事である、發疹は身體の外から內へ黴菌が入り込まうとするには至極よい入り口である。其入口を放置して何時でも御座れと門戸開放主義を取つて居らるゝ世の多數の御母様達のお氣が知れないのであります。申すまでも無く發疹には種種原因があつて出來ますもので、或は身體の毒や、食べ物のために出來るのもあり。又反對に外から種種な害が働くために出來るのもあります。いづれにしても治療を加へないでもよいと云ふものでは無い必ず早く加ふるがよいのである。尤も昔は治療法の進んで居なかつたために麻疹を治すと云つては却て肺炎を起こさしたり、發疹を治す積りで却て腎臓炎を發しさしたりした事が無いではなかつたが、現今進歩して居る世の中では決してさる憂は無いのである。

それから子供が大病になつた時の母乳であります。どうも母乳に限ると申上ましても母親達はさほどに

思はず、子供の飲み物、食べ物は何でもよし、只薬だけ飲めばよい、食物よりは薬が肝心だと思つてる方が多い様であります。然し薬も大切ではあるが母親は決して忽にしてはならぬ。殊に乳兒の間の食べ物は一朝子供が大病になつてからは煉乳や米の粉を飲まして置いたのでは先づ治らないと思はねばならぬ、牛乳でも子供の食物としては母乳に比べると劣等品であるから病氣の時にはいつも適當な食物とは思はれない。どうかしてもつと母乳を珍重する様な考を起こしていたゞきたい。

家庭衛生

按腹揉療治

按摩法は今から千有餘年前の大寶令にも按摩生、按摩博士などゝ云ふ名目がある位でありますから、我國には餘程古くから行はれた所の療治法であつて、その效能も大抵の人は御承知のことゝ思ひます。健康の人でも、疲勞したときに按摩をすると心持が好い、殊に肩が凝るとか、頭痛のするときなどに、その部分を按摩すると宜しいことは何人も經驗されたことゝ思ひますが、つまり按摩は血液の循環を善くし、身體を組成て居る所の細胞の機能を良くし、物質代謝を活潑にする作用があるからのことであります。それで腹部の方の按摩、即ち按腹も消化器の機能を助けて消化液の分泌及び吸收を良くし、又間接に腎臟にも作用して尿利を宜くする效能がある、殊に種々の神經病、就中神經衰弱症などに大に效能があるものであります。其他外科の方に於きましても、骨や筋肉の病氣の或時期に於ては、按摩は殆ど缺くべからざる療法の一になつて居ります。兎に角治療上に按摩の效あることは疑のないことでありますが、併し治療と云ふ以上は、各その病氣の如何なるものであるか、又同じ病氣でも、その時期

と云ふことを考へ、且つそれに相應した按摩法を施さなければなりませぬ。健康な人が疲勞を覺ゆる場合、又終日坐業をして居る人などが全身の按摩をするのは、これは何時でも差支がない、極めて適當な方法で、又その按摩も別に方式に據らず、矢鱈に素人揉をやつて差支がありませぬ。只危險或は有害なるは、病氣の場合に素人者で素人按摩を施すことであります。尤も素人の方は按摩をして痛みが増すとか却て心持が惡いとか云ふ場合には直ぐ止めますから、餘り害はありませぬが、從來の按摩を業とする者で、解剖も生理も病理も全く知らぬ盲人、或は柔術家などが辯舌巧みに素人を誑かして、醫師を馬鹿にし、無法の按腹揉療治を行ふものが往々あります、これが危險である。例へは盲腸炎とか、子宮周圍炎とか云ふ極めて安靜にすることの必要な病氣の場合にも、腹が痛むと云ふことの外には何も存じませんから、矢張平氣でこれを揉むで治す積になる、殊に山師氣のある大膽な按摩になりますと、その爲に病氣が惡くなつても、療治するには少々我慢しなければならぬなど丶言ひくるめて、無法療治を續け、何かの間違に依て少しでも病氣が輕くなれば非常な手柄にして益す傲慢になりますが、これが爲に腹膜炎を惹起し、甚しきは腸を破ぶつたなどと云ふことも間々あることであります。概して申しますと、胃や腸の運動が鈍くなり便祕する場合、神經性の病氣で、胃の部が何となく壓されるやうな苦しい感じのあるとき、その他通常の胃痙攣などの場合には適當に按摩を施して效がありますが、胃や腸に潰瘍があつて痛む場合、即ち胃腸に創が出來る居つてその爲に痛む場合、又胃や腸に癌腫の出來たとき、或は盲腸炎、その他總て焮衝の烈しい場合には決して按摩をしてはならぬのであります、若し斯樣な場合に無法に按腹を致しますと、胃や腸に孔があいたり、癌を他の臟腑に移し或はその部分を擴げたり、又は一部分の焮衝を周圍に及ぼして腹膜炎などを誘發す處があります、故に腹痛のある場合には、先づ

自分で靜に腹を撫でて見て、痛が輕くならず却て痛が增すやうな場合には、必ず醫師の診斷を受けて適當と認められた上でなければ、決して按腹療治などを試みてはなりませぬ、

今日に於ては、醫術上如何なる場合に按腹をして宜しいか、如何なる場合には惡いかと云ふことは學理上明かに定めることが出來、又そのマッサージの方法も、それ〲ありますから、治療法としては妄に行ふべきものでありませぬが、先づ普通に行はるゝ按腹の方法の概略を申上げて置きます。

按腹、卽ち主として胃腸のマッサージを行ふには、患者は仰臥の位置を取つて上體を稍ゝ高くし、膝を立てゝ兩脚を少しく體に近づけ、可成腹壁を弛緩めるやうにし、輕く口を開いて、穩やかに呼吸をするやうに致します。尙ほ按腹を施す前には排尿して膀胱を空にして置くことが必要である。

そこでマッサージを施す所の術者は、患者の右側に坐りまして、先づ右の掌を右の肋骨の下の處に當て平等に力を入れて心窩の下を經て左の肋骨の下の處まで撫て行く、これを行ふこと二三十回、それより兩手の尖を重ねて螺旋形を描きながら輕く壓し撫でます、次に兩手を以て左右より肉を挾むやうに揉み、最後に右手の指尖を揃へて少し壓し加減に叩きます、卽ち以上四通の方法を併用する、これが普通の胃のマッサージの要領でありまして、腸のマッサージも略ぼこれと同樣の要領に依るのであります。

尙ほ注意すべきことは食前食後は按腹を致しませぬ、どうしても食後二三時間を經て行ふべきことであります、而して右に述べました四通の方法を三分間位づゝ、つまり十分か十二三分間位づゝを以て一回とするのであります。

家庭に備置て良き藥品

○芥子　少しづゝ用ゆるときは食慾を增し、消化を

助く。同量の微温湯を加へて泥狀になしたるものを紙或はモンパ等にのして、ロイマチス、神經痛、その他焮衝ありて痛む所に貼りて效あり。又虛脫、昏睡、假死等の場合に刺戟興奮の目的に用ひらる長く貼り置くときは其部腫れて水泡を生ずるを以て五六分間にて皮膚赤くならばこれを去るべし。又一石の水に二十匁程の芥子を加へて全身浴に用ゆ、或は足浴とす、芥子泥を造るにも、浴用にも餘り熱き湯を用ひては效能薄し、微温湯を宜しとす。貯置くには粉にせざる種子を可とす、用ゆる際磨りて粉にす。

○酒精　心臟の急に衰へたるとき、虛脫、失神等の際に薄くして飲ましむることあり、燒酎、ブランデー等を宜しとす。ロイマチス、神經痛等の際に塗り或は焮衝に罨法料として用ひ、又皮膚の消毒に宜し、殊に妊婦は哺乳の準備として毎日酒精にて乳房を拭き皮膚を強くす。六十乃至七十プロセントの酒精を適當とす。尚ほ疲勞せるとき、氣の鬱したるとき少量の酒類を用ひて快きことは皆人の知る所なり。

○硼酸　危險少なき善き防腐劑なり、應用頗る廣く、一乃至二プロセントの溶液として洗眼、含嗽、罨法に用ひ、耳、鼻、膣等の洗滌に用ひ、又細末として耳、口鼻等の病に撒布さるゝことあり、軟膏として創傷、濕疹、その他の皮膚病に應用せらる。一ポンド二十五六錢位なり。

○樟腦　普通は樟腦を著物の蟲除け等に使用せられ、又惡臭ある處に撒布せらる。精製樟腦は最も有力なる興奮劑として醫療上缺くべからざる藥品なり、心臟及び呼吸衰へ、殊に急に虛脫に陷る如き場合にエーテル又はオレーフ油等に溶したる樟腦を注射す、又一回〇・〇三乃至〇・二位づゝ度々飲ましむ。その他軟膏或は酒精劑として種々の場合に刺戟性の塗藥とす。

○重曹　洗濯、髮洗、料理等に用ひらるゝ外、胃病にて殊に胃中の酸多くなり、胃に苦痛を覺え、む

ねやけ、おくび出る如き際に一グラム或は二グラム位用ひて大效あり、其他吸入藥などに使はる。

○薄荷　薄荷葉、薄荷腦、薄荷油、薄荷精等種々の製劑あれども、薄荷腦、卽ちメントールを貯へ置くを便とす、これは結晶にて、水にも幾分溶解し、酒精、エーテル、オレーフ油等には能く溶解す。細末にして砂糖を混せ又はオブラートに包み、一回〇・一乃至〇・三位づゝを興奮劑として用ひ、又胃痛、嘔吐等の際にも效あることあり。外用としては五乃至二〇プロセント位までの酒精溶液或は一〇プロセントの軟膏に造りて、齒痛、神經痛皮膚の瘙痒等に塗り、頭痛、鼻加答兒の初め等に嗅入して宜しきことあり。含嗽劑とすることもあり、臭氣止めにも應用せらる。

○サリチール酸　一回〇・三乃至一・〇グラムを解熱劑とし殊にロイマチスに內服藥として用ひられ、又滑石粉などと混じて足汗症、濕爛などに撒布し又軟膏或は酒精劑として種々の皮膚病に塗布し、其他含嗽料、洗滌料とし、制腐繃帶料としてサリチール酸ガーゼを製し、尙ほ飲食品等の腐敗止めに混せらるゝ等その應用極めて廣し、但し內服には中毒の危險あるを以て濫用すべきものにあらず。

○イヒチオール　黑褐色にて一種の臭氣あれども應用の廣き無害の外用藥なり、內服藥とすることもあれども稀なり、主として丹毒、ロイマチス、神經痛、濕疹、皮膚の瘙痒、火傷、凍傷等の際に三〇乃至五〇プロセントの溶液或は一〇乃至五〇プロセントの軟膏として塗布して效あり、純品をそのまゝ用うるも害なく、尙ほ婦人病には或はタンポンとし、坐藥とし、下腹部の塗擦料として盛に用ひらる。

思ひ遣り

本篇は高島氏が一家和の道と云ふ題にて話されたものなれども、

家庭衛生上甚だ關係の深き事なるを思ひ、こゝに掲載することゝなせり(編者)。

私の話しますことは、一家和合の道と云ふ事であります。私は一體自分の性分と致しまして、餘り固い事を申すことが出來ませず、且つ固い事をいふのは極く嫌ひであります。道德でも、何でも人間は樂んでやれば宜いので、いやだけれども義務だから仕方がないと云うて、閻魔が鹽をなめるやうにしては、氣が利かない話であると思ひます。孔子は知レ之者不レ如二好レ之者一。好レ之者不レ如二樂レ之者一と云うて居られます。私は人間の世の中はむづかしく考へて、理窟ばかりを以て押し通すべきものではないと思ひます。私の御話を致しますことも、或は道德の話としては採るに足らぬかも知れませぬ。私も可笑い事は可笑うございます。皆さんも御笑ひになるかも知れませぬが、强いて皆さんの御笑ひになるやうにするのではない。卽ち落語家のやうにするのではありませんが、私の性分で致すのでありますから、豫め御承知を願ひます。

それで私は一家和合の道は全く思遣りと云ふことに在ると思いますから、これから思ひ遣りに就いてお話致します。すべて人が世の中を渡つて行くのに大切なる道德の實行といふことは人に對する思遣りから起ると思ひます。是は私が斯う云ふ事を言ふばかりではなく、昔から多くの學者が道德に就ては思遣りと云ふことを重く說いて居ります。孔子樣なども、論語の中の忠恕と云ふ事を說いて居られます。恕と云ふのは、唯今申しました他人の心を思遣ると云ふことであります。又西洋の學者にも思遣りと云ふことを、道德の一番本にして居る人もあります。人の事を考へずに、自分の事ばかりを思つて居ると、喧嘩の原でありますから、斯ふ云ふ風にしては人の迷惑になりはせぬであらうか、斯う云ふ事をしたら、人が苦むであらうかと云つて思遣り、困つて居る者を見ると、苦しいだらうと云つて、助けて行く。是は口で言ふばかりでは仕方がないから、すん／＼實

行して行つたら宜いでせう。そこで私も御話して居る中に、むづかしい事を言つて皆さんが苦まれるやうでは相濟まぬと思ひますから、分りよくして皆さんが喜んで御聽下さるやうにすることが私の望であります。

扨て人の思遣りと云ふことは、どう云ふ場合に起るかと云ふと、自分が經驗して色々の事をやつて見たり、熱い地方にも行き、寒い地方にも行き、暴風にも出逢つて見たりすると、人が暴風に出逢つたと云へば、嘸苦しかつたらう、熱い所に行つたと云へば、私も熱かつたから嘸熱かつたらうと云ふやうに自分の出逢つた事から、人の事を考へるやうになります。それですから私は御婦人などによくお話することがあります。それは病氣をしない人の處に嫁に行くのは考物であるといふことです。かういふ人は自分が病氣をした事がないから病人の思遣りがないから慘酷の事をする虞がある。細君が病氣であると、私が折角歸つて來ても迎へにも來ぬ、不都合の奴ぢやと云うてぶんなぐる者がある。自分は病氣でないが、細君は寢て居るのである。自分が病氣になつた者は思遣りがあるからこんな事はせぬ。親は子供に對して思遣りがあるが、子供は親に對して思遣りがない。若い者は老人に對して思遣りが出來難い。併し斯う云ふ場合には斯うあらうと、心の中で想像すれば多少分るのでありますけれども、さう云ふ考のない人は、兎角思遣りが少ない。自分はさう云ふ事に出逢つたことはないけれども、斯う云ふ場合には、斯ういふやうであらうと、心の中で考を逞しくする人は賴母しいが、さう云ふ心の乏しい人は、思遣りの心が起らぬものであります。

それから又人は身分が餘り違つて居ると、思遣りが起りません。昔のお大名のやうにして育つた人は乞食とはどんな者か分らぬ。貧乏人が飯が食へないと云ふとそれは何故かといふことが分らぬ。或時日本一の富豪の子供が、饑餓があつて人々が飯が食へぬで困つて居るといふ話を聞いて。飯が食へぬといつ

てもおはちからよそつて食つたら宜からうと言つた話がある。おはちからよそへれば宜いが、それが無いから困るのですが、此子供はそれを知らぬのであります。それ故子供の時は、男も、女も、皆學校に入れて、色々の働きをさせ、或は奉公をさせて、寒い時や、熱い時に困難をさせるがよい。それが後に非常な助けになるのです。畏多い事であるけれども、今上陛下が學習院に御降學になつて居らせられた時には、市立學校よりも嚴格に御教育を申上げて、何時でも硬い腰掛の上に腰を掛けて御窮屈の思ひをなさつた。或時は病院をお見舞になつたり、或時は田舍の下々の人の狀態を御覽になつたり遊ばしました。これは皆御成人の後一般の者を思召す大御心の基を養ひ給ふ爲めであります。すべて子供はその年齡にふさはしい世上の物を見ることに依つて思遣りの心を養ふことが出來るのであります。それ故金があつて、家では贅澤をしやうとも、子供を育てる時は、自ら困難の處に出逢はせ、その經驗から困難の者を救はうと云ふ思遣りの心を作らせねばなりませぬ、自分は金を持つて居るからよいとして、下々の泣いたり、叫んだりして、苦を訴へる事には思遣りをせぬやうでは兎ても人の上に立つて安全の生活を育つことは出來ません。すべて思遣りと云ふこが、人間の社會を統一して行き、家庭を治めて行く上にも、學校でも、或は一般の社會でも、道徳が行はれて行くには、これが一番大事である。今日は私は家庭に於ての互の思遣りに就て御話をして、諸君が家庭を治めてお出になる爲めの御參考にしやうと思ひます。これは私自から行つて居る事で、空論でないから、どうか諸君も御同意なら之を御實行なされんことを望みます。

先づ第一番に御話申上げます事は、嫁と姑との事です。此爭ひが家庭で一番困ることです。玆にも年老つた方が御出になるやうでありますが、玆に御出の御方は、お嫁さんを可愛がられるでせう。お嫁さんも大分御出のやうでありますが、この方々は又姑に

よくお事になるでせう。併し一體に昔から嫁と姑とは仲が惡るい、犬と猿のやうなもので、どうも爭ひが絶えぬと云ふことが多い。それは一體どう云ふ事であらうかと云ふと、是は無理もない、姑さんはどうしてもお嫁さんよりか年を老つて居る。何處へ行つて調べても親は子供より年を老つて居るのは分つて居るから。嫁が二十歳前後であると、姑は五十歳或は六十歳位の人である。五六十歳の人と、若い者とは、心の働きが異つて居る、心に二つも、三つもないから、さう變りさうもないが、昔の人と、今の人の考とは、自然と分れて來るものである。人間は一番樂しかつた事をいつまでも思つて居つて、其事を繰返して、その時を一番宜いと思つて居るものである。どう云ふ時が一番樂しいかと云ふと、自分の體に病を受けた時、或は自分の體に働きをする事の出來ぬ時には、得意になれるものではない。諸君が考へて御覧になつても分るが、一番愉快であつた時は、或事柄に就て働いて居る間に自分の思ふことが出來る時である。農業ならば、人一倍働いて、金も儲かつた。米も良く出來たとか、その他何でも自分の思ふやうにすることが出來て、芝居、見世物、寄席を見ても、自分の心に適はぬやうなことがなかつた時が、一番得意である。それを生涯覺えて居るのは當り前であります。

今のお嫁さんの方は若くて血氣盛んの時であるから、今の世の中が愉快で面白いのである。頭の髮でも三尺五寸もあるやうな廂髮に結つて雨が降つても掛りはしない。…………今の人にはさう云ふ風なのが、一番愉快なのである。さうして蜻蛉が飛ぶやうに澄して行くのが、若い人には愉快である。著物の風でも中々今の若い人のは派手ですが、昔の人は絹か何かぴら〳〵したを著て居る者を見ると、百姓の娘さんには不似合だ、彼は氣違ひであると、お婆さんなどは言つて居る。リボンとか何とか云ひまして、大きな蝶々が止つたやうな飾が、今はやつて居るなど〻驚いて居る。そんなら、お婆さんが若い

時はどんなかと云ふに、庇髮などはありはしません。その頃は一體に大變髮を氣にしたもので——私はお婆さんでないから經驗はないけれども、——文金の高島田で出た時は、頸を長く轆轤首のやうにして歩いて居る。明日は芝居に行くとか、見合に行くとか、云ふ時は、頭が氣になつて居るから、ちよつと觸つても鬢がどうかしはせぬか、たぼもどうなつたらと云ふやうに氣にする。女は髮容と云つて。髮の事ばかりでも、お婆さんは、今の娘さんとは考が違ふ。歩き方が又違つて居る。昔の文金の高島田で以て、今の學校でやられるやうな體操をやると、島田が一二〱と動き出す。それだから危ぶない物を頭に載せたやうにして、歩かざるを得ない。況んや今の人は袴を穿いて居るから裾のまくれるのを氣にすることはないから、西洋人の歩くやうに、さつさと歩いて行く、さう云ふやうに、一つの歩き方でも髮の結び方でも、昔のお婆さんと娘さんとは違つて居る。昔の女は。言葉もやさしくて漢語などを使ふこともなく、質朴であつて、人の前で話をするにも、內氣にしてなか〱話さない。處が今日は女も堂々と演壇に立つて演說をすると云ふ風に變つて來た。斯う云ふ點からお爺さんでも、お婆さんでも、娘の狀態を見ると生意氣であると云ふやうになる。娘が好んでやらぬでも、學校で敎つた通りにして居れば。生意氣と見られる。家の者に分らぬことを言ふとか、或は歩き方が大さうぞんざいであるとか、頭の結び方が氣に入らぬ。牛の糞のやうな物を付て居るとか。私の若い時分にはそんなものでなつたとか、絹の物は著なかつたとか、昔お婆さんのお嫁に行つた時は、お婿さんと一所に歩くものではなかつた、處が今の細君は私の夫を見て呉れと云ふやうに又、夫は己れの細君を見て呉れといふやうに、手を曳合つて歩いて居る。それをお婆さんが見ると、禮儀も何もないと思へるので驚く。そこで私共の若い時はそんな事はなかつた。私がお爺さんと一所に歩いた時は、お爺さんが七十三で私が六十八で七月の

十三日にお盆のお墓參りに行つた其時か初めてゞあつた。それも極りが惡いから一丁ばかり離れて跡からついて行つたと云ふのである。それから禮儀の仕方であらうが、挨拶の仕方であらうが、老人ば昔の方が大變宜いと思つて居たものが、今日のやり方は大變に違つて來た。そこで嫁と姑との間、或は年寄と若い者との間は、兎角面白くない傾きがある。是は嫁の方にも無理がないし、年寄の方にも無理がない處がある。それを甚しくせぬ中に思遣りをしなければならぬ。

老人の方では私が此家に始めて來た時は大變困つた。知らない人ばかりで、鬼千疋と云ふ小姑が三人も居つた。さう云ふ所に來たから困つたことがある。それだから今度の嫁も定めて困るであらうと云つて思遣りをしてやり、自分の時を考へて來ると、色々の事を敎へてやると云ふ心も起つて來るのであります。又嫁の方ではどうかと云ふと、お婆さんはお氣の毒だ、年を老つて今の世の中の事は面白くなくいらつしやるだらう。眼も薄くなられたらう。足も弱くなられたらう。總ての事が變つたから、私共のする事はお氣に召さぬであらう。お氣の毒であると云ふ心があると、互に思遣りの交換が出來て調和して行くことが出來る。人が年寄になれば、その時代に色々氣に入らぬ事があり、面白くなくなるのは自然の事であるから、努めて若い者は年寄を慰めてあげねばならぬのです。年寄が何か話をしても、それはモウ十三遍聽きましたよと云うて笑嘲てはならぬ。繰返して話すことを面倒に思はぬやうにして、やさしく聽くと云ふ風にせねばならぬ。是は誰にでも直ぐに出來ることである。

それから年が寄つて來ますと、人は總て吝嗇になるものです。すべて人は命が少なくなると命が惜くなり、金が少なくなると、金が欲しくなるのです。自分に財産が有つても、年が寄ると、金が欲しくなるそれですから己れの物は無くても宜いから、年寄の爲にしなければならぬと考へて、若い者が年寄を慰

めるといふやうな事が修身の談にもよく書いてあります。親が大さう吝嗇であつて、米が落ちて居るのを拾うて自分の物にすると、大さう喜ぶ。そこで嫁がわざと溢すやうにする。さうするとお婆さんが拾つて喜んで居る。さう云ふひどい人は少いでせうが、先づ一般にさう云ふ風のものである。詰らぬ物でも、之をお婆さんに、之をお爺さんにと云ふて、好きな物を買つて來て上げる。と老人は無上に喜ぶ。是は實際に難いでありませうが努めてさう云ふ事をして居りますと、其心付けが家庭を麗しくして行くことになるのであります。自分の事を話すのも可笑しうございますが、私も年老つた母を有つて居りましたが自分は母信者でありまして、大概の事は母の意見に從つて努めて母を慰めるやうにしました。そこで自分は忙しい中でも、脊中をさするとか、足を揉むとか私が率先してやると、家内もやり子供もやると云ふことになる。餘所に行つても好きな物を母に持つて來て進めます。母に贈つても一人だけにする譯でもないのですけれども、母にと云つて進めれば、孫にもやるのでありますが、私は自からかういふ事を實行して來たのであります。無論さう云ふことは皆さんもやつてお出でせうが、時として嫁と姑との折合ひが惡るくて、困るといふ家庭のあるのは、つまり普通の事を行なへば宜いのであるが、それを怠つてやらぬのが基になつて、波風が起るのであらうと思ひます。確に多くの家の有樣を見ると、さうなつて居ます。兄でも、弟でも、是はお母さんへと云つて進めると宜いのであるが、氣が付かずにさういふことをせぬからして、金なら一文でも呉れたこともないと云つてお母さんが怒るやうにもなるのです。これは小さい事でありますが、萬事この通りに親を中心として事へるがよいと思ひます、さうすると親の方でも息子や嫁に對する思遣りが深くなつて來ます。

以上は嫁と姑との話でありますが、次には夫婦の間にも互に思遣りがなくてはならぬことをお話致しま

せう。一體妻が夫に對する思遣りと云ふことは、大事な事で、それに依つて家庭が美しく行くのでありますから、それが土臺にならなくてはなりません。妻が夫に思遣りをするには、よく夫の事を知らねばならぬ、夫はどう云ふ仕事をする人で、どう云ふ風にしたら慰めることが出來るかと云ふことを知つてそれで思遣りをして行かねばならぬ。夫はどれ程骨の折れる仕事をするものか分らぬと云ふのでは、思遣りは出來るものでない。維新の時のゑらい人は、世の亂れた時に結婚したのであるから隨分いかゝはしい人が奥さんになつて居る。左褄か、右褄か知らぬがさう云ふ者が伯爵夫人とか、侯爵夫人とかになつて居ります。初めは顔が奇麗で宜いとか、何とか云つて細君にしたのであらうけれども家庭が一向治らぬ。さう云ふ人が大政治家の細君になつて、政治家と云ふのは骨董屋であらう、此間も道具屋が來て青磁(政治)の香爐(綱領)をおかひなさいと云つて居たから、骨董屋であらう、と云つて居るやうな細君では夫を慰めることは出來ない。又斯う云ふ人が敎育家の細君になると内の人はけふ行く〳〵(敎育々々)と云つて、何時までも行かない。又鐵がく〳〵(哲學々々)と云つても、鍛冶屋も何もしない、と云ふやうでは、到底夫を慰めると云ふことは出來ない。それは學者ばかりではない、夫が實業家であれば、その妻も少しは實業の事を知らなければならぬ。例へば農業ならば、どれ位の物が農業の財源になり、どう云ふ風にして草をとり、どう云ふ苦心があると云ふやうなことを知つて居らなければならぬ。是等の事は妻たるものに必要のことである。又夫たる者もよく妻の事を知つて之を導かねばならぬ。唯馬鹿とか頓馬とか罵つて、頭ごなしに叱るだけではいかぬ。よく敎へて行かねばならぬ。

先年女學世界と云ふ雜誌に出て居つた話がある。それは或時敎育のある婦人が、或敎育のある若い人と結婚したどちらも敎育のある立派な人であるから、美しい家庭が出來るだらうと云つて居つた。所が或

日細君が明日はどう云ふ辨當を拵へて上げやうかと考へて居る處へ、終日疲れて夫が歸つて來た。夫の御迎に出ると、直ぐ明日は斯う云ふ風のお辨當にしやうと云つたので、びしやりと打たれた。そこで細君は私はあなたの事を考へて明日のお辨當を斯う云ふ風にして上げやうと思つて相談したのになぐられた。ひどい人だ。こんな人からは離縁されるよりも、こちらから追ん出てやらうと云つて、さつぱりと離縁し其人は終に亞米利加に行つて醫者になつて獨立しやうと云つて、一生懸命に勉強したものですから、よく出來て免狀を貰つた。そこで醫者の店を開いた處が、非常にはやつたのであります。さうして或日面白い病氣——醫者の方では、病人を見て斯う云ふ風にしたら宜からう、どうしたら宜からうと云ふて、考へるやうな病氣を面白い病氣と云ふのでありますが、——に出逢ひいろ〱と車の上で考へて之を癒せば手柄であると熱心に考へて歸つて來た處へ、婆さんが先生晩のおかずはどうとかかうとか言つて來たので、くしや〱として打ちたくなりました。これに就て考出したのは、十餘年も前の夫の事で、成程あの時夫の怒つたのは無理もなかつたと云ふことを漸く悟つたといふことです。

これは卽ち思遣りを現はす時を誤つたので、眞面目の話をする時は氣の落付いた時にすべきもので、疲れて居る時には、暑い時ならば湯を沸して置いて、湯に入れるとか、湯が沸いて居らぬ時は、手拭を冷水に浸して進めるとか、團扇であふいで上げるとかして、心を慰めるやうにせねばならぬ。さうして眞面目の事は、すつかり落著いた適當の時に言ふがよいのです。それは私にも經驗がある。私が獨りで居つて、伯母に世話をされた時に、親切にされたが。或る時私が遠方から歸つた時に挨拶も碌に濟ます、著物を脫がぬ中に是れ〱の物を買つて、是れ〱の勘定をしたと、書付けをならべられたのでいやになつて仕舞つてむつとした事がある。すべて思遣りをするには、外に出て働くには、どう云ふ苦

みがある、役所に出るとどう云ふ風。學者が學問する時はどう云ふ風と云ふことを考へて、それに對する慰めをせねばならぬ。それがさつぱり分らぬと、夫が歸つて來てもお歸んなさいと云つて、怒つたやうな顏をして居る、此野郎歸つて來ないでも宜いのにと云はずともさう取られるやうな樣子で挨拶されると、上流の人ならば怺えても居るでせうが、一般にはさうは往かぬ。こんな面白くない家に歸るよりか何處かで休んで來やうと云つて、お休所を拵へて歸つて來ない。そんなお休所がない者は夜中に摺鉢が飛んだり、摺子木が躍つたりするやうなことになる。それ故よく／＼場合を考へて思遣りをせねばならぬ。是は夫ばかりではない、親に對しても、兄弟に對しても、さうして行かねばならぬ。

以上は女の方の話でありますけれども、日本では女の方から夫の方を思遣ることはあつても、夫として女の方を思遣るものは少ない。又あつても、あいつは鼻の下が長い奴だと言はれるから、分らぬやうにして居る。地方に行くと、本當の細君があり、子供があるに拘らず、第二の細君、第三の細君、第四の細君があつて、數多くあるのを名譽にして居るが、女に第一の夫、第二の夫、第三の夫と云つて、掛持ちをしたらどんな感じをするでありませう。身分の高い人でも、低い人でも、斷然さう云ふ事をせぬやうにしなければなりませぬ。自分が嫌ひになると、疊と女房は新しいのが宜いと云つて新しいのを引入れる、人格ある者を疊と一所にされてはたまつたものでない。さう云ふ不德義な事は斷じてせずに思遣りをせねばならぬ。夫も妻に對して嘸苦しいだらう斯う云ふ貧乏の家に來て、氣がねをして困るだらう。子供を育てるにも嘸苦しからうと云ふやうに、一片の思遣りの心があるならば、さう云ふ不品行や、亂暴の事例へば摺子木で頭を打つやうなことは出來ない筈です。思遣りの念が少しでもありさへすればせさしい心を有つて行くことが出來る。妻は玄關に三つ指で以て御歸りなさいと云つて迎へる、三

つ指でなくても二つ指でも宜いが、然るに夫は若いのに妻を使ひにやつて、さうして少し外で暇を取つて歸つて來ると、迎えて呉れるどころか、直ぐに恐ろしい權幕で叱り飛ばし、何處で遊んで居つた、日が永いといつても好い加減にして置けと怒鳴る。叱るにしても暑いのに使ひにやつたのであるから、細君が玄關まで出るならば、次の間位までも出て、さうして細君が三つ指ならば、自分は一つ指でも宜い若し疊にぺたぐ\とお辭儀をすると、嬶天下になるから相當の禮を以て迎へ無暑かつたらう御苦勞であつたといふやうに勞はり、さうして若しも遲かつたならば、どうしたか心配して居たとおとなしく尋ねるやうにするがよい。昔或所の嫁さんが、二階から大事の鉢を持つて落ちた。さうすると夫は下に居てお前は怪我をしはせぬかと尋ねずに、いきなり大事の鉢を毀しはしなかつたかと云つて、鉢の事を先きに聞いた。そこで嫁さんはこんな所に居るのはいやだと云つて出て行つて仕舞つた。さう云ふ事は實に慘酷の話である。先づ怪我をしないかと云つて尋ねてやるのが人情である。すべて夫も妻に對する思遣りを充分に現はさねばならぬ。妻に足らぬ所があるならば、漸次に導いてやるやうにせねばならぬ、唯叱り付けると云ふことはよくない　一旦結婚したならば、必ず一夫一婦の制を守つて互に貞節を重んじて行かぬければ、家庭の改良は出來るものではない。

それから子供に對する思遣りであるが、お父さん、或はお母さんが、大變に困つて方々に借金が出來た酒屋に向つて借が出來た。魚屋にも借が出來たと云つて、頭痛鉢卷になつて勘考して居る。處が子供は飴屋を見て飴を買つて呉れ、おぢさんが帽子を持つて居るから買つて呉れと云つて來ると、時に依ると頭を叩く者もあるが、これはよく無い。すべて親は子供にも思遣りをしなければならぬ。子供が思遣りのないのは當り前だと前にもいうたが實際さうである。子供は酒屋に借をしたことはない、子供が贅澤

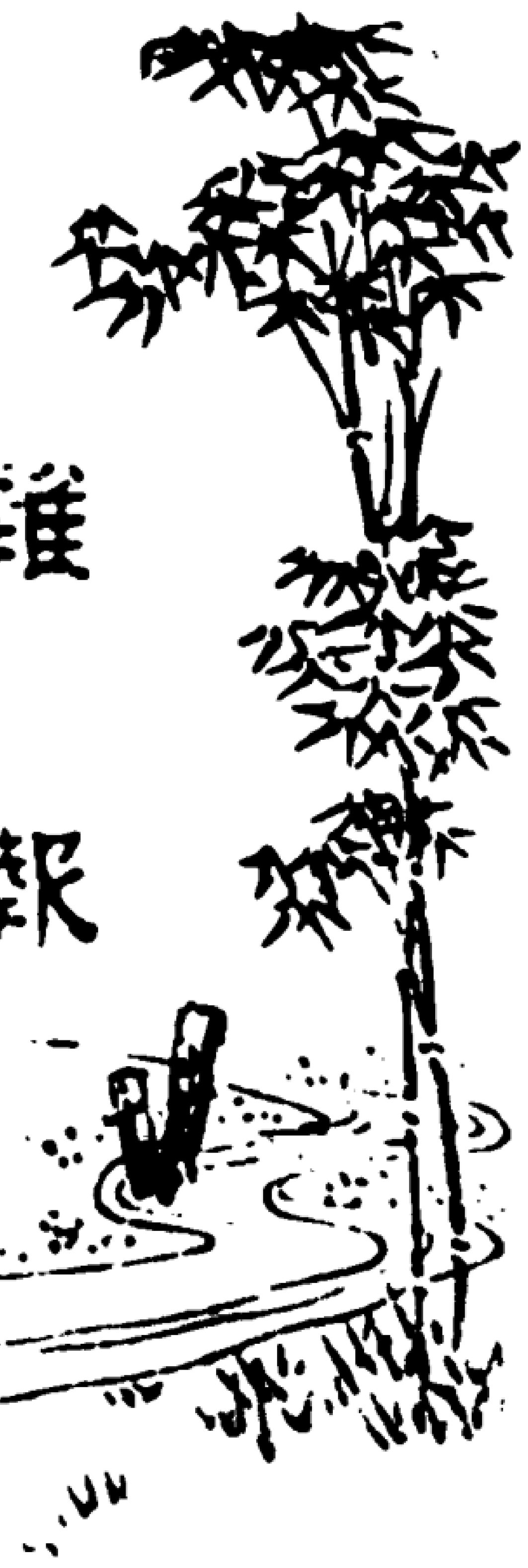
をして借金をして居るものはない。お母さんが額が皺を寄せて居るのは、何の爲か分らぬ。お父さんが困つて居ることは子供には分らぬから、子供に思遣りのないのは當然であるといふことを知つて導いて行かねばならぬ。大きくなれば子供にも相應に色々の望みが起つて來るから適當に之を叶へてやらなければならぬ。皆が或る學校に這入ると、子供もあの學校に這入り度いといふ。そこで親は己れが是丈酒を止せば子供を學校に上げることが出來るとか、是丈の贅澤を止せば、是を買つてやることが出來ると云ふことを知つて、自分の贅澤を止めて、子供の思遣りをせねばならぬ。

親が思遣りをすると、子供は兩親があんな困る中からして下すつたといふて報いをするやうになる。勿論親は報いて貰ふ爲にするのではないけれども、實際はさう云ふものである。殊に子供に親の思遣りをさせやうと思ふのは、自分の親を大事にして見せるのが大切である。獨逸の讀本の中に、目の見えない困るお爺さんがあつて、嫁が之を虐待する。子供は知らぬで居つたが或時その年寄が手が顫へて板の上に皿を落して毀はして仕舞つた。そこでこんな爺さんに皿を持たして置くのは勿體ないといふて檻のやうな物に入れて、犬のやうに取扱つた。さうすると或日子供が庭に出て方々から木を集めて小さな檻を拵へて居る。母親がそれは何だと云つて聞いたら、僕が大きくなつたらお父さんとお母さんとを斯う云ふ中に入れてやるのであると云ひました、そこで母は驚いて、お爺さんの前に行つて、お詫をし、それから後はお爺さんを大切にしたと云ふことである。是は作り噺であらうが、實際その通りで、或る子供を不孝の奴だと云ふが、子供ばかり惡るいかと云ふと、さうでない、自分が親を疎末にして居るから子供が見習つて、自分を疎末にするのである。何でも年寄を中心にして事へて見せるやうにして行かねばならぬ。子供がそれを見習つて、お父さんが私の爲に苦心して下さると云ふことを考へるやうになれ

ば、次第に思遣りをするやうになつて來るのであります。

（以下次號）

雜　報



○徒弟學校設立の計畫

住友男爵家にては先年來貧民長屋を建築せんとの計畫あり、種々これに就て研究する所ありしが、何分此種の事業は國家又は都市の經營とすれば兎も角、個人の事業としては至難の事に屬し、その結果は却て惰民を作るの嫌ひあり且つ此處に收容さるゝものは概ね老人婦女子のみとなりて、事業の消極的に傾き易き虞あるより更に計畫を改めて大規模の徒弟學校を設立することゝなり、今回大阪西區市岡中學校の西手に當る土地千坪を讓り受くべしと云ふ。設備費三十萬圓を投じて建築に着手す。

○ペスト豫防心得

昨年七月横濱市にペスト發生以來、警視廳細菌檢査所に於ては鼠族に對する檢査を怠らざりしが、去月六日日本橋區箱崎町の下水より捕へたる一疋の鼠にペスト菌あることを發見せるより、同廳に於ては防疫課員全部出張して其の附近に對し豫防消毒を施し尙ほ熱心に鼠族捕捉を勵行したるも幸に他に有菌鼠を發見せずと、此際當局より配付せられたるペスト豫防心得は極めて通俗的にして要を得たるものなるを以て左にその全文を揭ぐ。

（一）ペストとはどんな病氣か

ペストと云ふ病氣は非常に恐しい傳染病で之に罹れば百人中で八九十人は死ぬのであります

其の症候の概略を申しますと病芽が身體中に入つても二日か五日長ければ十日間位は平生と異つたことなく働いて居る中に全身倦怠、食慾減退、關節部の痛、頭痛等があるようになると一日も經ないのに俄かに惡寒、戰慄がし堪へられないほど強い頭痛が始まり夫れと同時に三十九度から四十度以上の高熱が出て言語は澁滯、神識朦朧として非常に弱つてまゐります

そして多くは鼠蹊部、股、腋窩等に淋巴腺腫が出來て疼痛があり周圍は發赤腫脹があつて壓せば強く痛みます又此の淋巴腺腫が

出ないで漸次に咳嗽が強く胸苦しくなり血痰が出るのもあります又皮膚の何所かに癰の様な腫物が出ることもあります是等は何れもペストで其淋巴腺腫や喀痰や腫物の中には病芽が夥多あり終には全身の血液中にも病芽が循るやうになり而して發病から四五日又は一週間經ないで大概は死んで仕舞ひます

(二)ペストはどうして傳染するか

此の恐しいペストはどうして傳染するかと申しますと元來ペストは鼠族間に流行る傳染病で鼠も人と同樣にペストに罹り殆んど悉が斃死しますこれ等の病鼠又は其屍體を他の鼠が喰へば喰つた鼠が亦ペストに罹ります又鼠には多數の蚤が居つて血を吸へば蚤の體中にもペストの病芽が入り込み其蚤が他の鼠につけば其鼠も亦罹ります又ペストに罹つた鼠の糞尿蚤の糞塊の中にも病芽があつて夫れに觸つた鼠がペストになることもあります斯して鼠族間に多く流行ると病芽が到處に散らばり遂に人間にも附着くようになります又鼠に居る印度蚤と云ふのは人にもつきますから此蚤から病芽を受けることが多いのでありますそれで鼠から鼠に鼠から人へと漸次に傳染つて行くのであります又負傷をしたり又眼には見えないやうな微傷があつても其所から病芽の侵入ることがあります又喀痰から病芽が出るやうになつた患者に近寄ると咳嗽時に出る泡沫を知らずに吸込んで感染ります

(三)ペストに罹らないやうにはどうして豫防するか

一、ペスト病は主に外國の流行地から船舶で來るものでありますから船舶の出入する場所附近地の倉庫等では特に警戒せねばなりません、

二、ペスト病は先づ鼠族間に傳播して次に人間に傳染るのでありますから之が豫防は鼠族驅除が第一であります

三、鼠を獲るには殺鼠劑でも捕鼠器でもよろしいのですからいろ〳〵工夫して倦まずにとらねばなりません

四、臺所や茶の間等には鼠の喰物を出して置かぬ樣よく始末し又流元等は清潔にし塵芥箱には蓋をして置かねばなりません

五、鼠の出入する流元湯殿等の溝口には金網を張り又壁や戸の空間等をも塞いで鼠の屋内に入らぬ樣にせねばなりません

六、出來るだけ天井裏牀下其他鼠の棲息場所を搜索して鼠をとりつくす樣になさい

七、若し斃鼠を見付けた時は長い棒切か火箸などでそつと挾み手早く新聞紙に包み直接には手を觸れぬ樣になさいそうして其棒や火箸は火で燒き斃鼠の在つた所には消毒藥又は熱湯をおかけなさい

八、斃鼠でも捕鼠でも必ず巡査の派出所へ御出しなさい

九、ペスト病は蚤から傳染ることが多いから蚤の附着ぬ樣注意なさいそれで危險い場所で立働く人は足袋、脚絆、股引、襯衣等の裏側によく蚤取粉を振りかけてよく身體を包みなさい又仕事着や衣服はせい〴〵清潔にして家屋もよく掃除し蚤の居ないやうに心掛ければなりません

十、ペスト病は細微な傷口から傳染りますから傷口は絆創膏繃帶等でよく封じておきなさい

十一、不明の熱が出て腺腫が出來て痛む樣な事があつたら直に醫師に診てもらいなさいペストは恐ろしい病なれども早く治療すれば治り易いのであります

廣告

○婦人衛生會新年會

本月十一日午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て婦人衛生會の新年會を催せり、當日は來會者至て少數なりしも役員會員互に新年の挨拶ありて平素の例會よりも一入親しく歡談に時を移し、講師は都合によりて缺席せられしより直ちに餘興として巴水の講談二席ありて閉會、それより來會者一般に茶菓を供し、尚ほ濱尾男爵夫人よりお汁粉の饗應あり、全く散會せるは午後四時過なりき。因に當日出席の役員姓名を記すれば左の如し。

濱尾作子　岡田德子
羽田三緒子　石川さだ子
鳩山春子　長谷川仲子
宮本榮子　田村清子
高木鍈子　岸澄子

○新潟支會新年會

同支會に於ても同じく去る十一日午前十一時より新潟市婦人敎育會、帝國婦人協會新潟支部と合同の上新潟師範學校附屬校作法室に於て新年會を開き出席者百有餘名、來賓江口師範學校長、長井講師の挨拶に次で岡野女史の筑前琵琶、會員諸氏の餘興等ありて頗る盛會なりしとの報告ありたり。

○本會入會者

○荻原淳子紹介
●芝區三田豐岡町六八　特別會員　水野米子
○勅使河原君惠子紹介
●長野市仲町　通常會員　堀内美苗子
●長野市諏訪町四三　通常會員　岡野ふじ子
●長野市諏訪町三一　通常會員　沼田ひろ子

○新潟支會入會者

○松井ふで子紹介
●　通常會員　今成いく子
○中村しげ子紹介
●　通常會員　松平孝子

○轉居

●麻布區笄町一九へ　藥谷保子
●芝區三田二ノ五へ　森山なみ子
●芝區白金三光町四三五へ　阿部優子
●府下宮益坂四六四へ　田中とせ子
●兵庫縣鳴尾村上鳴尾八幡宮西へ　神谷ゆき子
●朝鮮水原山棲洞官舍へ　田中直子
●備中矢掛町野木醫院内へ　新保小春子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穗子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子
同 羽田三緒子
同 高木綠子
同 三浦敬子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鵜原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池米子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價		
一冊	定價金貳拾錢	郵稅壹錢
三冊（三ケ月分）	前金郵稅共	金四拾五錢
十二冊（一ケ年分）	前金郵稅共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年一月二十二日印刷
大正三年一月二十五日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

育兒の話

醫學博士弘田長先生題
醫學博士唐澤光德先生著

◉前編
◉後編續出

◉袖珍型本綴美麗
◉全文總振かな附

▼正價金參拾五錢
▼郵稅金貳錢

哺乳兒時期に死亡するもの最も多きは統計表の示す所、其原因多くは育兒の方法其宜しきを得ざるに由るものにして小にして一家庭の悲哀を起し、大にしては我日本帝國の消長に關す育兒の法豈等閑に附すべけんや、弊舖茲に見る所あり今回唐澤博士に乞ひ、本書を公にするの光榮を得たり、本書は言文一致體にして頗る平易なる文字より成り、説く所亦實行的なれば婦女子と雖も了解し易く、醫家も亦本書に由り成書に記載なき治療上の注意を見出し、益を得ること尠からざるべしと信ず

婦人の衛生

楠田謙藏先生述
鈴木准二先生編

（菊判假綴美裝）

◉全一册

◉木版圖畫十二插入
◉全文總ふりかな附

▼正價金四拾錢
▼郵稅金四錢

此書は婦人の月經時・婚嫁時・妊娠時・分娩時・産褥時並に其固有の疾病時に當りて注意すべき事柄を漏すことなく記述し之に附するに小兒の保育上の注意疾病時の注意を以てしたるものにして婦人は此記述に準じて自愛するときは庶幾くは其健康を保持し且愛兒を適當に保育することを得ん此書に類したる名を負せて世に出すところの書冊に比すれば其所述に於て其優美にして卑猥ならざる點に於て少しく撰を異にするところあるを信ず

發行所 振替東京四一八番 東京市本郷區龍岡町 〔電話下谷一六七二〕 吐鳳堂書店

婦人衛生雜誌第二百九十號（大正三年[illegible]）明治四十三年十二月[illegible]日[illegible]（毎月一回[illegible]）